

本で読む犬のしつけをまじめに考える！
<http://www.dogparty.net/>

子犬のしつけ

小田 史子著



WONDER CRAYON

犬のしつけをまじめに考える
<http://www.dogparty.net/>

子犬のしつけ

Rev1.02

2005年2月3日

はじめに

この冊子は、犬のしつけをまじめに考える！(<http://www.dogparty.net/>) 子犬のしつけ(<http://www.dogparty.net/Body/puppy/>) に紹介されているコンテンツをまとめたものです。

サイトを開設してから約4年が経ち、そのアクセス数は68万件に達しました(2004/6/12 現在)。その中で、最もアクセスの多いのが「子犬のしつけ」です。「印刷して家族みんなで読んでいます！」そんな声もたくさん頂戴しました。その一方で、「インターネットを使えない友達にも教えてあげたいんだけど」といったお問い合わせに対しては「ホームページを印刷していただくしか・・・」というお返事しかできず、申し訳ないような気持ちを抱いたことも随分ありました。

そこで企画・制作したのがこの冊子です。これからは、インターネットでお読みくださるだけでなく、紙の上でも「子犬のしつけ」をかわいがっていただければと思います。

また、この冊子はホームページ上(ダウンロードセンター：<http://www.dogparty.net/Body/download/>)からダウンロードして無償でお使いいただくこともできます。ホームページ上で参照するのも、ダウンロードしたものを印刷した上でお読みいただくのも、製本されたものをご購入いただくのも、同じ内容が参照できます。

私がみなさんへお届けする「子犬のしつけ」が輝くのは、子犬と暮らし始めたみなさんの不安な気持ちや悩みが解消され、子犬が生き生きと、明るく、一緒に生きていく人間のことを心から信頼できる犬へと成長していく瞬間です。最も活用しやすい方法でご活用いただくことで、この「子犬のしつけ」に命が吹き込まれ、みなさんのお手元で美しい輝きを放って欲しいと願っています。

2004年6月12日

小田 史子

著作権について

本書の著作権は小田史子が所有しています。

ご利用について

本書は、犬のしつけをまじめに考える！:通信販売(<http://www.dogparty.net/Body/shopping/>)よりご購入いただけるほか、犬のしつけをまじめに考える！:ダウンロードセンター(<http://www.dogparty.net/Body/download/>)より無償でダウンロードしていただくこともできます。同内容は、犬のしつけをまじめに考える！:子犬のしつけ(<http://www.dogparty.net/Body/puppy/>)から閲覧することもできます。

このような配布・販売形態を取っているのは、ひとりでも多くの方に気軽にお読みいただけるように、との思いからです。したがって、コピーしたものをお友達にあげたり、無償で貸し出したり、といった形でみなさんと犬との生活にお役立っていただくことは、私の希望するところです。

一方、本書の内容を書き換えて誰かに譲り渡したり、本書を販売したり、雑誌に転載するなど、営利目的でのご利用はご遠慮ください。

サークルや動物病院などで、本書を無償で配布するなど、非営利で再配布することも原則として構いません。ただしその際には、メール(admin@dogparty.net)・お電話(042-775-6004)・FAX(042-775-6005)いずれかの方法でご連絡をいただければうれしく思います。これは使用を制限するためではなく、どのような用途で使われるのかをお知らせいただくことで、私の励み & 今後の参考にさせていただきたいからです。

免責事項について

「子犬のしつけ」の内容は、HP上で今後アップデートされる可能性があります。本書が販売、もしくはダウンロードされた後のアップデート分に関しては、その提供を行えないことをご承知おきください。

また、本冊子の内容には万全を期してはおりますが、その内容を保証するものではなく、万が一これらによって損害が生じた場合にも、何ら責任を負うものではありません。

目次

第1章 子犬のためのトイレトレーニング7

1. トイレトレーニングを始める前に7
2. トイレトレーニングの準備をしよう10
3. トイレトレーニングを始めよう15
トイレトレーニング・よくある質問26
4. トイレトレーニングの完成へ35

第2章 噛む・じゃれる38

PART1: 人を噛む38

1. 子犬の甘噛み38
子犬の甘噛み・よくある質問52
2. “気に入らない” ときに噛む55

PART2: 物を噛む60

3. 代替りの物を探してみよう60
4. 環境を変えよう67
5. トイレシートを噛んでしまうときには73
トイレシートを噛んでしまうときには・よくある質問77

第3章 吠える・鳴く78

1. 子犬の甘え鳴き78

第4章 子犬の社会化88

1. 子犬の社会化88

第5章 “しつけ” の学び方！94

1. 子犬のための3つの箱と4つの法則94
2. 子犬のためのクリッカートレーニング105
3. 3つの箱と4つの法則 vs クリッカー109

第1章

子犬のための トイレトレーニング

1. トイレトレーニングを始める前に

おしっこが出るしくみ

子犬は、どうして、飲むとすぐにおしっこするのでしょうか？
子犬のおしっこの回数はどうして多いのでしょうか？

子犬の体の中で生成されたおしっこは、膀胱にたまります。子犬の体はとても小さいですね。膀胱も同じで、まだとても小さいのです。だから、たくさんのおしっこを溜めておくことができません。これが、子犬のおしっこの回数が多く、飲むとすぐにおしっこする理由のひとつです。

体が大きくなるにつれて膀胱も大きくなると、たくさんのおしっこをまとめて排泄することができるようになります。

遊んでる最中に突然おしっこしてしまいます。

人間にも膀胱があります。膀胱にたくさんの尿が溜まっても、コップから水が溢れるように自然に膀胱から排泄されることはありませんね。ここではおしっこしちゃだめ！ここでならおしっこしていいぞ、とちゃんと排尿をコントロールしているのです。膀胱の周りには括約筋という筋肉がおしっこを出したり、留めたりする“バルブ”の役目をしており、排泄しなくてもかまわない場所でのみ排尿が起こるような仕組みになっています。

犬にも括約筋があります。子犬はまだ括約筋が未発達です。バルブがゆ

るい状態です。だから、膀胱に尿がたまるとその場でおしっこが出てしまいます。これが、子犬が突然おしっこするように見える理由です。

体が発達するにつれ、括約筋も発達します。バルブを閉めたり、緩めたりすることができるようになると、おしっこしたいな、と思ったときに、その場でおしっこしてしまうのではなく、トイレに行くまでの間バルブを閉めておくことができるようになります。

うんちが出るしくみ

うんちも同じです。うんちがしたいと感じたときに、その場でうんちが出ていたら大変なことになりますね。ここではうんちしちゃだめ！ここでならうんちしていいぞ、というコントロールを可能にするために、肛門の周りには括約筋が、うんちが出ないようにバルブを締めたり、緩めたりする役目を果たしています。

そして、犬の肛門にも括約筋があります。発達途上にある子犬は、括約筋も発達途上です。バルブを上手に閉めておくことができないため、食べたらずぐにうんちしてしまったり、遊んでいる最中に突然しゃがんでうんちを始めたりするのです。

体が大きくなるにつれ括約筋も発達し、バルブを閉めたり、緩めたりすることができるようになると、その場でうんちをしてしまうのではなく、トイレに行くまでの間バルブを閉めておくことができるようになります。

犬に教えてあげること・・・

トイレでおしっこ・うんちができるようになるためには、次の3つのことを犬に教えてあげる必要があります。

- おしっこ・うんちをしたいなと思ったときにバルブを一旦閉める
- トイレに行く
- バルブを緩めて排泄する

これができるようになるには、2つの要素が関係しています。

まず第一に、「ここがトイレだよ」ということを根気よく教えてあげる

必要があります。人間が設置したトイレは、人間にとっては「犬のトイレ」ですが、犬から見たらただの、紙の敷いてある場所ですね。そこがトイレであることは、人間が教えてあげなければ、犬にはいつまでもわかりません。これから順に、どうすれば犬に「ここがトイレだよ」ということを教えてあげられるのかを解説します。

そして、忘れてならない2つ目のポイントは、体の発達も不可欠ということです。膀胱が小さかったり、括約筋が未発達な状態では、トイレまで歩いていく前に、排泄が起きてしまっても仕方がないですね。バルブを開めたり、緩めたりすることができるだけの体の発達を待ってあげること、トイレトレーニングの完成に必要な要素です。

トイレトレーニングのその先に・・・

焦らずに、犬の成長を見守るような気持ちで、楽しく前向きに取り組みましょう！最初は、トイレの場所などおかまいなしに、あちらこちらで排泄していた犬が、自分でトイレに行って排泄し、「トイレでおしっこ・うんちしたよ！」と自信に満ちた表情であなたを見つめてくれるようになったらうれしいですね。

同時に、ここでご紹介をするトイレトレーニングには、これから長く続いていくあなたとあなたの犬との生活に広く役立つ要素がちりばめられています。人間は、犬の行動を先回りして望ましい行動を引き出してあげることの大切さや、本当に誉めてあげたい気持ちを伝えるには人間は何をしなければならぬのかを知ります。そしてその気持ちが通じたときには、犬がどんどん変わっていくことを実感できるはずですよ。そして犬は、トイレの場所を覚えるだけでなく、どうしたら誉めてくれるの？と人間に注目し、生き生きと動き、人間にはたらきかけてくれるようになってくれるでしょう。

トイレトレーニングをきっかけに、あなたとあなたの犬との絆が深まっていく・・・そんな楽しく前向きなトレーニングにしましょう！

2. トイレトレーニングの準備をしよう

いつから始めればいいのでしょうか？

トイレトレーニングは、犬が家にやってきたその日から始めることができます。早速、今日からトイレトレーニングの準備をしてみましょう。

最初の一步

トレーニングを成功に導くために、ここで是非やっておいていただきたいことがあります。それは、排泄の記録をつけてみる、ということです。

排泄の記録とは、「いつ、どこで排泄が起きたか」の記録です。何時に、どこで排泄をしたのか、把握できる限りすべての排泄の記録をつけてみましょう。あわせて、以下のようなイベントの時間を記録しておくことをお勧めします。

- 食餌
- 水分摂取の時間
- 散歩
- 寝起き
- 遊びなど体を動かした時間

記録をつけてみると、人間が思っている以上に、犬の排泄には規則性があることがわかってきます。「いつ」の情報から、どんなイベントの後に排泄が起こるのか、何時間おきに排泄するのかがわかります。「どこで」の情報から、トレーニングの開始にあたって、どこにトイレを設置するとトレーニングがうまくいけるかがわかります。現状を正確に把握することがトイレトレーニング成功の鍵です！2日から3日ほど、記録をつけてみましょう。

たとえば、こんな記録ができあがります。

おしっこ・うんち リズムシート

| 生活 | 時間 | 排泄 |
|-----|----------------------|----------|
| 起床 | 6:00 6:05 | おしっこ |
| ゴハン | 8:00 8:10 | おしっこ・うんち |
| ミルク | 9:10 9:15 | おしっこ |
| 昼寝 | 10:00-12:00 12:00 | おしっこ |
| 遊び | 12:00-12:30 12:15 | うんち |

成長に伴って、排泄の間隔は広がっていくかもしれませんね。ぜひトレーニングが終わるまで、この記録を続けることをお勧めします。あなたの犬の“成長記録”になるかもしれませんよ。

トイレの数は？

設置するトイレの数は、原則ひとつをお勧めします。これから行うトレーニングでは、「ここがトイレだよ」ということを犬に繰り返し伝えていきます。早くそのメッセージを犬に理解してもらうためには、いつも同じトイレをトレーニングに使った方がいいのです。

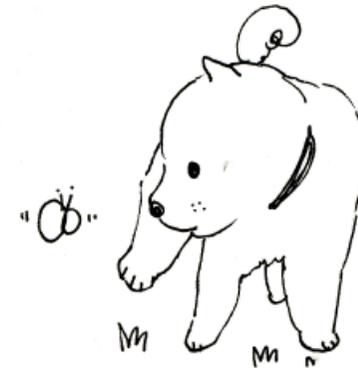
お留守番や就寝時には、サークルを使用しており、その中にトイレが設置してあるというご家庭も多いでしょう。この場合には、サークルの外で過ごすときにも、サークルの扉を常に開けっ放しにしおき、その中に設置したトイレをトレーニングに使うようにします。

ただし、

- サークルの扉を開けっ放しにしておくことができない
- 最終的にはサークル以外の場所をトイレにしたい
- 記録をつけてみた結果、サークルの外に出ているときには、別の場所

で排泄することが多い

- サークルから離れた場所で排泄する傾向が見られる
 といった場合には、サークルの外に、もうひとつトイレを設置し、このトイレを使ってトレーニングをすることも可能です。この場合には、トイレは2箇所になりますが、サークルの外に出ているときには、サークルの外のトイレで排泄し、サークルの中にいるときには、サークル内のトイレで排泄するように教えることが目標になります。



トイレの場所を決めましょう

排泄の記録が、2日から3日分集まったら、トイレの場所を決めましょう。

1. よく排泄する場所がある場合

よく排泄する場所があれば、そこにトイレを設置することができないかを検討してみましょう。

2. 排泄場所が決まっていない場合

その場所にトイレを設置することができなければ、比較的よく排泄する場所のうち、トイレを設置可能な場所を選びましょう。

排泄する場所もまちまち、どこに設置していいかさっぱりわからない！

という場合には、人間の方でトイレを決めてあげましょう。そのときには、よく目が届き、いざというときに、すぐにトイレに連れて行ってあげられるよう、家族が集い、犬が主に過ごしているリビングなどに設置してあげるといいでしょう。

犬によっては、成長するにつれて、就寝したり休息したりする場所から離れた場所で排泄したがる傾向を見せることがあります。そのような傾向が見られる場合には、サークルやクレートのように、いつも寝たり、休息している場所から離れたところに設置するといいいでしょう。

参考：「就寝したり休息したりする場所から離れた場所で排泄したがる傾向」とは、どのように見分ければいいのか？そのような傾向がある犬は、サークルの中など、就寝したり休息する場所では排泄を我慢し、サークルから出たと思ったら、玄関先や、洗面所など、別の場所まで行って排泄したり、同じ部屋の中であったとしても、部屋の隅の方など1番遠くまで行って排泄したりします。また、サークルの中で排泄を我慢しているときに、サークルから出して！と吠えて人間を呼んだりすることがあります。そのような行動が見られるかどうかを目安にしてみるといいでしょう。

一旦トレーニングを開始したら、トレーニングが完了するまでは、トイレの場所を変えません。トイレトレーニングは、「ここでおしっこ・うんちしてね」というメッセージを犬に理解してもらう過程です。犬が失敗を繰り返すたびに、「トイレの場所が悪いのかしら？」と場所を変更していたのでは、人間の「ここでおしっこ・うんちしてね」のメッセージが犬にはいつまでたっても届かないばかりか、犬の「ここでおしっこ・うんちするからね！」のメッセージに人間が振り回されてしまうこととなります。

場所を決めたら、「絶対ここでおしっこ・うんちできるようにトレーニングしよう！犬に教えてあげよう！」という強い意志で取り組むことも大切です。

トイレを作ろう！

ペットショップなどで市販されているトイレトレーに吸水性のトイレシートを敷くのが一般的です。



トイレトレーなしでトイレシートを敷いてもかまいません。トイレシートの代わりに新聞紙を使うこともできます。ただし、トイレには、いつでも同じものを敷いてあげた方がいいでしょう。これは、敷いてあるものやその足元の感覚でトイレを覚える可能性があるからです。従って、トイレを2箇所設置する場合も、同じものを敷いてあげた方が望ましいと言えます。



3. トイレトレーニングを始めよう

トイレトレーニングの目標

さあ、トイレトレーニングを始めましょう！ここでご紹介をするトレーニングによって、あなたの犬はこんなことができるようになります！

「おしっこ・うんちがしたいな、と思ったときに、自分でトイレに行って排泄する」

それでは、その方法を順に解説しましょう。

トイレトレーニングの方法

手順はいたって簡単です！「トイレでおしっこやうんちをしたらご褒美をあげる」これだけです。「ん？誉めてあげたいけれど、トイレでおしっこ・うんちしてくれないからトイレトレーニングが必要なのは？」と思うでしょう？当然、待っているだけでは、トイレで排泄してくれません。こんなときに、ご褒美をあげるのだと考えてください。

- もちろん！自分でトイレに行って排泄したとき
- 人間が誘ったり、連れていった結果、トイレで排泄したとき

どんな経緯を経たにせよ、結果的に「トイレでおしっこうんちした」とときには、ご褒美をあげればいいのです！最初から、自分でトイレまで行って排泄してくれないなら、連れて行ってトイレで排泄させ、ご褒美をあげればいいのですね。ご褒美をあげ、犬を誉めてあげるチャンスを人間が作ってあげる、というのがこのトレーニングのポイントです。

トイレで排泄をした後に誉めてもらえる経験を繰り返し、どこで排泄したら誉めてもらえるのかを理解していきます。そして、最終的には、尿意・便意を感じたときに、自分でトイレまで行って排泄できるようになります。

それでは、どうしたら、「トイレでおしっこ・うんちさせ、誉めるチャンス」を作ってあげられるのでしょうか？そのための工夫をご紹介します

しょう。



いつおしっこ・うんちするのかな？

トイレトレーニング開始時点において、日に何回かはトイレで排泄することがある犬は、そのときを逃さずに誉めてあげましょう。しかしそうではない場合には、「トイレで排泄」を誉めてあげようにも、ただ待っているだけでは、トイレで排泄してくれませんね。そこで、「排泄しそうなタイミングでトイレに連れていく」ということが大切になります。

それでは、その「排泄しそうなタイミング」はどうすればわかるのでしょうか？排泄の記録をつけてみましたね。その記録を眺めてみてください。あなたの犬は、毎日何回くらいおしっこ・うんちをしているのでしょうか？健康な状態であれば、おとといのおしっこは3回だったのに、昨日は15回。今日は1回もおしっこしなかった・・・なんていうことはなく、同じくらいの回数で定期的に排泄が起こります。

そして、こんな風に記録を眺めてみると、規則性を見つけやすいでしょう。

1. おしっこ・うんちの時間間隔を見てみましょう。

たとえば、1日3回うんちする犬の場合、午前中に3回、それ以降は全くしなかった、というようなことはあまりなく、午前中、午後、夜1回ずつ、というように、ある一定の時間間隔があるものです。何時間間隔くらいで排泄しているのか、おしっこ・うんちごとに見てみましょう。

2. 食餌や水分摂取と、おしっこ・うんちの関係を見つけてみましょう。

食餌をしたり、水分を摂取した後、どのくらいの時間をあけて排泄しているでしょうか？それがわかれば、その時間にトイレに連れて行ってあげることができます。食べたり、飲んだりするとすぐに排泄したり、食べている最中に排泄する子犬もいます。トイレの近くで食餌をさせ、いざというときにすぐにトイレに連れて行ってあげられるようにしてもいいですね。

3. 寝起きに気をつけてあげましょう。

寝起きに排泄する傾向はないでしょうか？もしそうであれば、寝起きには必ずトイレに連れて行ってあげるといいでしょう。

4. 遊びなど体を動かしているとき、またはその後に排泄する傾向はないでしょうか？

体を動かすことが排便を促すことがあります。こういう傾向が見られるときには、トイレから離れた場所で遊ぶのをやめ、犬をよく観察しうんちのかまえを見せたら、すかさずトイレにのせてあげるといいでしょう。

最終目標は、「おしっこ・うんちがしたいと思ったときに、自分でトイレに行って排泄すること」でした。トイレに連れて行って排泄したのでは、最終目標とは違う！と思われるかもしれません。それでも誉めてあげていいのです。たとえ、失敗寸前の状態で抱き上げ、トイレに慌てて乗せたようなときにも、あたかも犬が自分でトイレに行ったかのような気持ちで「よくできたね！」と心から誉め、ご褒美をあげてください。そういう過程を経て、「どうすれば誉めてもらえるのかわかったよ！」と自分でトイレに行くようになっていきます。

トイレに連れて行こう！

今にもおしっこ・うんちしそうなおときには、とにかく早く抱き上げてトイレに連れて行ってあげなければなりません。しかし、余裕があるときには、犬にトイレまで歩いていくように誘導してあげるといいでしょう。

1. ご褒美を持ち、犬の鼻のところへ持っていきます。そのご褒美をトイレの方向へ移動さしましょう。犬も一緒にトイレの方向へ歩き出ませんか？



2. トイレの上まで乗ったら、ご褒美を口に入れてあげましょう。これは、上手にトイレまで歩いて行けたことに対するご褒美です。



3. この方法に慣れたら、何処にいても、いざというときにはトイレまで自分の足で歩いていけるように、トイレまで誘導する距離を伸ばしていきましょう。



ご褒美をあげよう！

トイレでおしっこ・うんちをしたら、その直後にご褒美をあげ、うーんと楽しい気分にしてあげてください。犬に「よくできたね！」の気持ちを確実に伝えるためのご褒美のあげ方には、2つのポイントがあります。

タイミング

ご褒美は、トイレで排泄をした直後にあげましょう。犬は、ご褒美をもらった直前の行動を学習します。「トイレで排泄」を学習して欲しかったら、「トイレで排泄」のすぐ後に、ご褒美をあげる必要があります。

ご褒美の選び方

“ご褒美”の本当の意味は、「犬に喜んでもらうこと」です。食べる物に限らず、犬が喜ぶことやものなら、何でもご褒美になります。ご褒美は、犬が喜んでくれて初めてご褒美になる、ということはどうぞ忘れないでください！人間がご褒美として与えているものの犬が大して喜んでおらず、ただ与えられているものを食べているだけになっているとしたら、それはご褒美としては機能していないこととなります。ぜひ、あなたの犬がしっぽをフリフリ大喜びするような、大好きなものを見つけてみてください！

食べ物

大抵の犬は、食べるもの好きです。食餌としてあげているもので十分喜ぶのなら、一部を取り分けておきご褒美にしてもいいでしょう。犬用のおやつを準備してもかまいません。与える量は、ドッグフードなら一粒。おやつなら、小指の先ほどの大きさに切っておき、ひとかけらで十分です。

犬は遊ぶことが大好きですね。ボールやぬいぐるみなど、好きなおもちゃで暫く遊んであげてを“ご褒美”にすることができます。1分ほど遊んだら、他の好きなものと交換して返してもらいましょう。犬が飽きてしまう前に返してもらうことで、次への意欲につながります。また、トイレトレーニングのご褒美として使うおもちゃは、いつも出しっぱなしにしておくのではなく、排泄の後でだけ遊べる特別大好きなおもちゃとし

て、普段は見えないところにしまっておきましょう。

ガム

犬用ガムや、豚の耳、牛のひずめ、馬のアキレス腱など、噛むおもちゃをご褒美にすることもできます。1分ほど噛ませてあげたら、他の好きなものと交換して返してもらいましょう。犬が飽きてしまう前にとりあげてしまうことで、次への意欲につながります。また、トイレトレーニングのご褒美として使うガムは、いつも出しっぱなしにしておくのではなく、排泄の後でだけ与えられる特別大好きなものとして、普段は見えないところにしまっておきましょう。

イベント

サークルの扉を締め切って、排泄するまで待ってあげている場合には、排泄が済むと同時に、大げさに「いい子だね」と声をかけ、扉を開放し、サークルの外へ誘ってあげることもご褒美になります。サークルから出ること、散歩に出発すること、ごはんを食べること・犬が喜ぶ瞬間や出来事は、ご褒美になります。このようなイベントの前にトイレトレーニングを設定してもいいでしょう。



どのご褒美を使う？

これらはみな、ご褒美になります。でももし「どれを使えばいいのかしら・・・」と迷ったなら「食べる物」のご褒美を使うことをお勧めします。大抵の犬が、食べる物が好きです。一方、おもちゃや、ガムのようなものは、「遊びたい気分するとき」「噛みたい気分するとき」に与えてあげてはじめてご褒美として生きてくるため、いつでも同じように犬が喜んでくれるとは限りません。トイレの傍らに1回分ずつの食べる物のご褒美を準備しておき、排泄し終わると同時に口に入れてあげる・・・これが、確実に効果のあがるご褒美のあげ方です。

おもちゃやガムを返してもらおう！

おもちゃやガムなどをご褒美にした場合には、以下のようにして返してもらうといいでしょう。無理やり取り上げると、取られまいとして逃げ回ったり、噛み付いたり、唸ったり、思わぬことを学習してしまうかもしれません。

1. 好きな食べ物を用意します。
2. 正面からではなく、斜め前から低い体勢で静かに犬に近づきます。
3. 好きな食べ物を差し出します。
4. おもちゃやガムから離れるように、食べるものを犬の鼻先につけながら、自分の方に引き寄せます。
5. 食べるものをあげ、その間にそっとおもちゃやガムを返してもらいます。

チェック！順調かな？

トイレトレーニングを始めて、何回かご褒美をあげることに成功したら、あなたの「誉めてあげたい」の気持ちが犬に伝わっているかどうかチェックしてみましょう。以下のうち、ひとつでも該当するものがあるでしょうか？

1. 人間を意識しながら排泄します！

おしっこするよ、とあなたのことをチラチラ見ながらトイレに行ったり、排泄中もあなたのことを気にしたりしていませんか？

2. 排泄の後、ご褒美ちょうだい！と催促します

排泄し終わった後、ご褒美を探す素振りを見せたり、あなたのところへ駆け寄ったりしていませんか？

3. 少しづつ排泄したりします

あなたのことを見ながら、何回もトイレに行って、少量づつチビチビおしっこしたりするようなことはありませんか？

これらの行動は、あなたの「誉めてあげたい」の気持ちに応えて、誉めてもらおうと一生懸命になっている証拠です！トイレトレーニングはとも順調だといえます。

これらの様子が見えないときにはどうすればいいのでしょうか？

1. ご褒美はタイミングよくあげられていますか？

ご褒美は、排泄した直後にあげられているのでしょうか？排泄したことを誉めてあげるには、直後にご褒美をあげなければなりません！

2. ご褒美を喜んでいますか？

ご褒美をあげた後の犬の反応をよく観察してみましょう。あなたの犬はご褒美をもらって十分喜んでいてでしょうか？食べる物を与えているのなら、「もっと頂戴」という素振りを見せるくらいのものであると効果的です。より好きなご褒美を探してみてもいいでしょう。

3. 他にも何かトレーニングをしていますか？

もし、トイレ以外のトレーニング(おすわりを教えたり、クリッカーを使ったトレーニングなど)でご褒美を犬に与えているなら、トイレトレーニングが軌道に乗るまでの間控えてみましょう。犬はどうすれば大好きなご褒美が手に入るのかな、と考え動きます。その結果、ご褒美を手に入れることができた行動を学習していくのです。トイレでおしっこ・うんちしたときにのみご褒美が手に入るような状態を作り出すことによって、「トイレの学習」がより効果的に行われるようになります。

失敗したときには？

失敗してしまったら、知らん顔して片付けましょう。ペットショップなどで売られている消臭剤を使って、匂いも取りましょう。

失敗の後始末をするときには、かがんで、ティッシュや雑巾を動かしますね。その動作を、遊びと勘違いしてしまうことがあります。片付けているあなたの腕にはしゃいで絡んでくるようなことがあれば、それは、トイレ以外の場所でおしっこやうんちをしたことに対して、「遊び」というご褒美をあげたのと同じ状態になってしまいます。このような場合には、犬が見ていないところで片付けるようにしましょう。

叱る必要はないのでしょうか？ 答えは「ありません」です。叱っても「次からどこでおしっこすればいいのか？」ということを犬に理解させてあげることではできませんね。それどころか、おしっこやうんちをしたこと自体を叱られたのかと勘違いし、隠れて排泄するようになるかもしれません。

そしてもうひとつ叱ってはいけない理由があります。犬は、一緒に暮らす人間の注目が大好きです。例えば叱っているつもりでも、それが犬にとって「人間の注目」というご褒美になっていることがあるのです。自分がおしっこを失敗すると、「それまで見向きもしてくれなかった人間が自分のところへ飛んできてくれる！」と学習してしまいます。

叱るといかに申し訳なさそうにする犬がいて、反省しているように見えますが、これは、失敗したことを申し訳なく思って



いるわけではなく、人間が怖い顔をしてブツブツ言いながら雑巾で床を拭いている・・・という状況が、自分にとって都合が悪そうだ・・・と学習しただけなのです。犬のトイレは「ここでおしっこ・うんちしてね」と人間が勝手に決めて犬にお願いしているものです。どうぞ最初からわからなくて当然だ・・・という気持ちで取り組んでください。

よく目にする失敗時の対処

みなさんがよく目にする方法に「失敗したところに鼻を押し付けて叱る」というのがあります。これは絶対にやってはいけません。この方法ではトイレを覚えることができないどころか、ちょっと困ったこととなります。

想像してみてください。あなたは今、言葉の全く通じない外国で、外国人に囲まれて食事をしています。あなたが一口食べ物を口に入れた途端、一緒に食事をしていた人が、突然あなたの首根っこを掴み、お皿に顔を無理やり押し付け、なにやらガミガミ言い出しました。さて、あなたはどんな気持ちでしょうか？ 何がいけなかったのか理解できるでしょうか？ どうすれば怒られずに食事をすることができるのかわかるでしょうか？

通じない言葉でガミガミ言われても、何がいけないのか、どうすればいいのかは決してわかりませんね。しかも、首根っこを掴まれてお皿に顔を押し付けられたのです。恐ろしくて、こんな思いをするならもう食べなくてもいい・・・と思ってしまうかもしれませんね。ひとりになった瞬間を見計らって、こそっと食べる・・・なんてこともありえるかもしれません。

犬にも全く同じことが言えます。おしっこを失敗してしまっただけで、鼻を押し付けて叱られても、ただ怖い思いをするだけで、次からどうすればいいのかは全くわからないのです。それどころか、叱られないためにおしっこを我慢する、人間の見えないところでだけおしっこをする、というちょっと困ったことになってしまいます。

このトレーニングでは、排泄をした後にご褒美をあげるのです。と

ということは、飼い主さんが見ていると怖くて排泄できない！というのではご褒美はあげられないのです。叱ると、トレーニングは遠回りになってしまいます。

特定の場所での失敗が繰り返されているときには？

こんなことに気をつけてみてください。

1. トイレが汚れていませんか？

犬は、汚れている場所で排泄したがりません。おしっこやうんちをしたらすぐ片付けて、トイレをきれいな状態にしてあげてください。うんちはすぐに取り去り、シートが汚れていたら、取り替えます。おしっこの場合には、おしっこで汚れたシートを取り替えます。「まだきれいな部分が残っているのに、シート1枚を取り替えてしまうのはもったいない！」と思われるなら、汚れている部分だけはさみで切って新しいものと重ねることで、きれいな状態にしてあげてもいいでしょう。

注意： トイレシートを切るはさみは専用のものを準備するなどして、衛生面に気をつけましょう。

2. 失敗する場所

失敗する場所が決まっている場合には、物を置いて、物理的に排泄できない状態にしたり、ラグマットのように取り除くことができるもの場合には、トイレを完全に覚えてしまうまで取り除き、失敗を防ぎましょう。特定の部屋での失敗が繰り返される場合には、トイレを完全に覚えてしまうまで、ドアを閉めておくことにしたり、サークルを置いたりして、その部屋へ入れないようにしてもいいでしょう。

3. 健康であること・・・

そして何より大切なことは、犬が健康であることです。トイレトレーニングの妨げになるような病気にかかっていないか獣医さんと相談しながら気を配ってあげることも大切です。健康であることは、犬のしつけの第一歩ですね。

トイレトレーニング・よくある質問



Q. トイレに連れていっても排泄してくれません・・・

最初は、トイレに連れていってもなかなか排泄してくれないかもしれませんね。犬には、「ここでおしっこするとね、ご褒美もらえるんだよ」と説明してあげるわけにはいきませんので、突然、トイレに連れて行かれて、びっくりしているかもしれません。

サークルの中に設置してあるトイレでトレーニングをしている方は、暫くサークルの扉を閉めて、排泄するまで待ってあげてもいいですね。トイレをサークルで囲っておくということも有効です。

犬に何かを教えるときには、期待している行動をするまで待ってあげる、ということが大切です。そしてそれは排泄も例外ではありません。「どうせまた今度もしてくれないな」と人間の方が早々に諦めてしまったのでは、もう少し待てば誉めてあげられたのに・・・というチャンスを逃してしまうこととなります。特に排泄は、日に何回か必ず起こります。極端な例ですが、待っても待っても24時間1度も排泄しなかったということはありえないのです。根気よく待って、排泄したときを逃さずに誉めてあげてください。最初はなかなか排泄してくれなくても、繰り返すうちに、「そうか！おしっこすれば誉めてもらえるのか！」と気が付き、トイレは、たくさん誉めてもらえる楽しい場所になっていきます。

逆に、絶対にやってはいけないのは、なかなか思ったとおりに排泄しないからといって怒ったり、叩いたり、イライラすることです。犬は、そこから何を学習するのでしょうか？トイレで排泄したらご褒美がもらえる、ではなく、自分がトイレにいるということが「怒られる」「大好きな人がイライラしている」という嫌なことと結びつき、トイレから早く脱出することばかりを考えたり、トイレに行くことを嫌がるようになるのです。

家にやってきたその日から、トイレの場所をピタリと覚える犬がいないのと同じように、最初から犬の排泄時間をピタリをあてられる人もいません！犬と一緒に過ごす時間を重ね、「あーもっと早く連れていけばよかったな」とか、「そうか・・・こういうときに排泄するのか」と毎日経験しながら、徐々に、犬の行動を予測できるようになっていきます。それは、あなたが、あなたの犬のことをより深く理解していくことができるようになる過程でもあります！どうぞ、焦らずに取り組んでみてください。



Q. すでに”失敗したら叱る”をやってしまいました。確かに隠れて排泄したがるのですがどうすればいいのですか？

「おしっこ・うんちすることは、決して悪いことではないよ。叱られないよ」ということをまずは教えてあげなければなりませんね。それを教えてあげるにはどうすればいいのでしょうか？2つの方法をご紹介しますと思います。

方法1

まずは、トイレ以外の場所で排泄しても、叱ったり、叩いたりするのはやめましょう。排泄中や排泄後に、目を合わせたり、声をかけてはいけません。排泄したら叱られると思い込んでいる犬にとっては、目が合ったり、人が近づいてきたり、声をかけられることは、あなたは叱るつもりはなくても、叱られる前兆として写るかもしれません。犬の方からその場を立ち去った後でだまって後始末をしてあげてください。

人が見ていなければトイレで排泄できる場合には、目を合わせたり、言葉をかけたり、無理に近づくのはやめ、安心して排泄できるようにしてあげましょう。暗いところで排泄することが好きな犬の場合には、サークルの上に、タオルなどをかけたり、ダンボールのようなもので少し視界をさ

えぎってあげてもいいでしょう。安心して排泄できるようになると、人が近くにいるのに排泄できたりするようになってきます。そのような段階まで来たら、さりげなくご褒美を投げてあげたり、犬の近くに置いてあげるといいでしょう。そして、排泄した後にご褒美が出てくることがわかってくると、あなたの姿を見たときに犬の方から近づいてきたり、目を合わせてきたりするようになってきます。排泄した後に「いい子だね」と声をかけてあげたり、ご褒美をあなたの手から食べさせてあげるのは、そのような状態になってきてからでもちっとも遅くはありません。

方法2

どこで排泄したときにも、大げさに褒めてご褒美をあげましょう！排泄して欲しくないと思っている場所で排泄したことを誉めることは、かなり勇気のいることかもしれません。でもこれを繰り返すうちに、排泄した後「おしっこ(うんち)したよ！褒めて褒めて！」とあなたに近づいてくるようになったり、「褒めてもらえるかな・・・」とあなたのことを気にしながら排泄したりするようになってきます。このような段階まで来たら、トイレ以外の場所で排泄したときには知らん顔し、トイレで排泄したときにだけご褒美をあげるようにします。そしてそのときには、排泄しそうなタイミングを見計らい、トイレに連れて行ってあげることも合わせてしてみてください。トイレに連れて行ってあげる方法については、「3. トレーニングを始めよう」を参考にしてください。



TEA TIME

Q. 失敗しそうになっています！どうすればいいですか？

そっと抱き上げてトイレに乗せてあげましょう！叱ったり、注意したり、声をかけたりする必要はありません。ここで叱ったり声を出すと、「ここで排泄すると大好きな人が自分のところに飛んできてくれる！」と勘違いされてしまいます。(例え叱ったつもりでも、人間に注目されたら犬を喜ばせてしまうことがあります。)黙って、トイレまで連れていき、排泄したらご褒美をあげてください。

Q. ご褒美をもらおうと「わざと」排泄しているようですが、いいのでしょうか？

これは、トイレでおしっこ・うんちをすればご褒美がもらえる、と犬が学習し始めている証拠です。これは決して人間が考えているような「わざと」ではなく「おしっこ・うんちしたら誉めてもらえるんだ！人間の期待に応えなくちゃ！」と一生懸命になっている現われなのだと考えてください。

犬によっては、ご褒美をもらい終わった後で、連続して排泄することもあります。こういうときにも、「よくわかったね！ここでおしっこすると、誉めてもらえるんだよね！」という気持ちで、ご褒美をあげて誉めてあげてください。

トイレトレーニングが完了し、あたりまえのようにトイレで排泄することができるようになったときには、ご褒美をあげる頻度を減らしていきます。(「4. トレーニングの完成へ」で解説します。)この段階になると、このような行動も徐々になくなり落ち着いていきます。

Q. いつのまにかトイレに行って排泄したようです。随分時間が経っているのですが誉めてあげてもいいのですか？

犬は、誉めてもらった直前の行動を学習します。「トイレでの排泄」を誉めてあげるには、その直後でなければなりません。トイレの周りをうろろしていたり、「ちゃんとできたよ」と呼びにきていたりしていれば、一緒にトイレの前まで行って、誉めてあげるといいでしょう。

もう既に排泄したことをすっかり忘れ、他のことに夢中になっていたら？残念ながらそのときには、何を誉めたいのか犬に伝えることができません。しかもそのときにごみ箱に頭をつっこんでいたり、噛んではいけないものを噛んでいたとしたら？犬は、「ごみ箱に頭をつっこむ」ことや「噛んではいけないものを噛んでいる」ことを誉められているのかと勘違いし、それを学習してしまうかもしれません。

次は誉めてあげられるといいですね。犬の様子に気を配ってあげよう！と決意をあらたにしてください！

Q. 絨毯や玄関マットなど、どうしても失敗してしまう場所があります。トレーニングで治りますか？

犬の排泄しそうなタイミングを見計らい、失敗してしまう前にトイレに連れていき、トイレでの排泄を1回でも多く誉めてあげましょう。結果的に、絨毯や玄関マットなど、望ましくない場所での排泄経験は少なくなっていくますね。そうすることによって、「悪しき習慣」を取り除いていくことができます。

もし失敗している場所が決まっているなら、その上に物を置いて物理的に排泄できないようにする、玄関マットのように取り除ける物なら取り除く、ドアを閉めて失敗の多い部屋には出入り禁止にするといった工夫をす

ることも重要です。

Q. おしっこやうんちをはみ出してしまいます

前足はトイレに入っているのに後ろ足が入っていないからはみ出しちゃう！最初はトイレの上にしたのに、うんちしながら歩き出して、結局はみ出ちゃった！・・・この犬は、トイレの場所がわかっていないのではなく、場所はわかっているのに、排泄物をトイレの上うまく乗せることができなかっただけですね！こういうときには、まず、トイレの大きさを確認してみましょう。トイレを大きくすることによってはみ出しを防ぐことができるのなら、それが一番早くて確実な解決方法です。犬との生活では、犬に望ましい行動を教えるだけでなく、生活環境を工夫してあげることもとても大切です。

もし、十分な大きさがあるのに関わらずトイレの奥まで入らないのであれば、おやつなどを使って奥まで誘導してあげるといいでしょう。誘導の方法は、「3. トイレトレーニングを始めよう」を参考にしてください。

トイレの入り口に箱などを置いて、それをまたいだ上でトイレに入るようにすることで、体を完全にトイレの上に乗せることもできます。

Q. おしっこはできるけど、うんちができません

私たちは、おしっこやうんちを「排泄」としてひとまとめにして考えがちですが、おしっこする、ということと、うんちするということは、別々の行動なのだと考えてみましょう。おしっこがトイレでできたからといってうんちをトイレでしてくれない・・・ということが起こっても当然なのです。

それでもおしっこは、トイレでできるようになったのです。うんちも同

じょうにトレーニングしてあげれば、必ず、どこでうんちをすれば誉めてもらえるのかわかる日が必ずやってきます。「うんちはトイレでできるけれどおしっこはできない」という逆のケースも同様です。



Q. 一度はトイレでできていたのに突然できなくなりました。

トイレトレーニングに限らず、犬にはときどき、それまでできていたことは突然できなくなることがあります。人間の気がつかないところで混乱するような出来事があつがのかもしれないですね。

私たちがひらがなや、足し算や、九九始めて覚えるときどうだったでしょうか？今はあたりまえのようにできるこれらのことも、確かな知識として定着するまでには、何度も間違いを繰り返しながら練習を重ねてきているはずですね。犬も同じだと考えてあげてください。

一度はできるようになったのです。「何度言ったらわかるの？」「どうしてわからなくなっちゃったの？」とイライラする前に、「わからなくなったら何回でも練習すればいいよ」ともう一度、まっさらな気持ちでトレーニングに取り組んであげてください。そのような過程を経て、どこでおしっこ・うんちすれば、人間に誉めてもらえるのか、犬の中に確実に定着していきます。



Q. サークルの中にトイレを置いています。サークルの中にいるときにはトイレで排泄できるのに、サークルの外に出ると部屋のあちこちにしてしまいます。

お留守番などにサークルを使っていると、「サークルに入るとまたひとりぼっちになっちゃうかな。ずっとサークルの外にいたいのに」とサークルに入ることを警戒するようになることがあります。警戒するあまり、サークルの中のトイレを敬遠しているのかもしれないですね。このような場合には、以下のように練習してみるといいでしょう。

1. もうそろそろおしっこしそうだな、と思ったらサークルに入れてあげましょう。
2. 犬の様子をよく観察し、トイレでおしっこやうんちしたら、その瞬間に大げさに褒めてサークルからすぐに出してあげてください！そしておやつなどをあげたり遊んであげたり楽しいことがたくさん起こるようにしましょう。

こうすることで、サークルから出してもらえる、ということをご褒美に、サークルの中で排泄することを学習することができます。サークルに入ってから排泄するまでの時間に着目するといいでしょう。少しずつ「そうだ、おしっこすれば遊んでもらえるんだ！」と気がつくまでの時間が短くなっていきます。

サークルに入ったらすぐに排泄するようになったり、排泄した後で「サークルから出して！ご褒美は？」という表情をするようになったら、今度は、サークルの中に自分の足で歩いていった上で排泄するように練習するといいでしょう。どこにいても自分の足でサークルまで歩いていった上で排泄できるように、いつも遊んでいる場所からサークルまで誘導し、サークルの扉を閉め、排泄したらサークルから出してあげてご褒美です！トイレまで誘導する方法は、「3 . トイレトレーニングをはじめよう」で

解説しています。

せっかくトイレで排泄したのに、その後サークルに入れっぱなしになったのでは、再びサークルに入ることを警戒するようになってしまいます。短時間でもかまいません！サークル内のトイレでおしっこできたら、必ずいったんサークルから出してうんと楽しい時間が送れるようにしてあげるといいでしょう。



Q. トイレシートを噛んでしまって、トレーニングどころではありません！

「第2章 噛む・じゃれる 5 . トイレシートを噛んでしまうときには」を参考にしてください。



Q. ご褒美としてクリッカーは使えますか？

排泄し終わった瞬間にクリッカーを鳴らしご褒美をあげることで、「トイレで排泄できてえらかったね」ということをより確実に犬に伝えてあげることができます。トイレトレーニングが終わるまでは、クリッカーとご褒美をトイレの横に備え付けておくといいですね。

クリッカーの使い方については、「第5章 “しつけ”の学び方！ 2 . 子犬のためのクリッカートレーニング」を参考にするといいでしょう。

4. トイレトレーニングの完成へ

ご褒美の頻度を減らしましょう

おしっこ・うんちしたいな、と思ったときに、自分でトイレに行って排泄することがほぼ100%できるようになったら、トイレトレーニングも終盤です。これまでは、トイレで排泄するところを見かけたら、必ずご褒美をあげるようにしていましたね。これからは徐々にその回数を減らしていきます。

いきなり、全くご褒美をあげるのをやめてしまうのではなく、3回に2回、2回に1回、3回に1回、4回に1回・・・というように、徐々に頻度を減らしていきます。減らし方は、規則的である必要は全くありません。3回に1回あげた後には、2回連続であげる・・・というように、不規則に減らしていくといいでしょう。

毎回同じご褒美ではなく、あるときは言葉で誉めるだけ、あるときは、おもちゃで遊ぶ・・・というように、ご褒美の種類を変えていってもいいでしょう。

Q. ご褒美をもらえることを期待しているので、減らしにくいのですが・・・

ご褒美をあげるかあげないかは、人間が決めます。「今回はあげない！」と決めたら、催促していることにちっとも気がついていないような素振りで、知らん顔していかまいません。

「ご褒美ちょうだい！」と催促した後でご褒美をもらう経験が繰り返されることで、犬は何を学習するのでしょうか？「ちょうだいちょうだい！」と人間に飛びついたり、人間の後をついて周ったりした後で、ご褒美がもらえることとなります。これでは飛びついたり、人間の後をついて周ることを学習してしまい、ますます催促するようになってしまうのです。

これから先、毎回必ずご褒美があげられるとは限りませんね。トイレで

おしっこしたことに気がついてあげられないこともあるかもしれません。気がついていても手が離せず、褒めてあげられないこともあるかもしれません。1回ご褒美をあげられなかったからといって、「なーんだ！それじゃ、もうトイレではおしっこしないよ」ということになってしまっただけは困りますよね。

褒めてもらえるかももらえないかに関わらず、教えたことがいつでも上手にできるようにしてあげるには、いったん上手にできるようになったら、少しずつ誉める回数を減らしていくということが大切です。こうすることで「今度は誉めてもらえるかな・・・誉めてもらえるように次もがんばらなくっちゃ！」と、いったん学習した行動が、より確実に犬の中に定着していくこととなります。

ぜひ新しいトレーニングへチャレンジを！

ここでご紹介したのは、「トイレでおしっこ・うんちをした直後にご褒美をあげる」というトレーニングでした。ぜひトレーニングを始める前のことを思い出してみてください。数週間前、数か月前には、トイレの場所がわからず、あちこちで失敗していたでしょう？

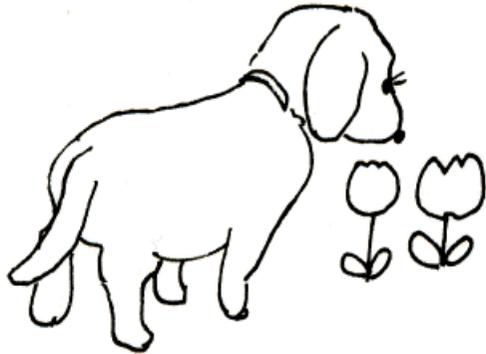
トイレでの排泄にご褒美をあげるにより、犬の行動にいろいろな変化が起きましたね。自分でトイレに行って排泄するようになったこと以外にも、「ご褒美くれるの？」と人間を意識したり、「トイレでおしっこしたよ！」と意気揚揚と報告しにくるようになったかもしれませんね。

これらの行動の変化は、すべて犬の学習の軌跡です。私たちは、望ましい行動の直後にご褒美をあげることによって犬の行動を望ましい方向へ伸ばし、「どうしたら誉めてくれるの？」と人間の期待に応えようとする心を育てることができます。

トイレを覚えたら、次は、別の行動を教えるのにこの方法を使ってみましょう。おすわりを教えたいのなら、おすわりした直後にご褒美をあげればいいですね。お手を教えるのなら、犬の手をあなたの手に乗せるように

仕向けて、乗せた直後に、いかにも犬が自分でお手をしたかのように大げさに誉めて、ご褒美をあげればよいのです。これまでは、トイレでおしっこできたかな？と犬の様子に気を配ってあげていましたね。これからは、「いい子にしているかな？」と犬の様子に気を配り、ひとりでいい子に遊んでいたたり、おすわりして待っているようなときに、誉めてあげるといいですね。トイレ以外の行動にご褒美が与えられることにより、トレーニング中に見られた排泄回数の増加などの現象も落ち着いていきます。

トイレを覚える過程がそうであったように、犬との生活は、望ましい行動を誉めることの繰り返しです。あなたが誉めてあげることによって、犬が少しずつ行動を変え、学習していることを心から喜んであげてください。毎日の積み重ねによって、最初は全くできなかった「トイレで排泄する」ということができるようになるように、誉めることの繰り返しにより、あなたの犬は、人間と一緒に暮らしていく上で望ましい行動を少しずつ、かつ確実に身に付けていくのです。



第2章 噛む じゃれる

PART1: 人を噛む

1. 子犬の甘噛み

どうして子犬は噛むのでしょうか？

「甘噛みが激しいのですがどうすればいいのでしょうか？」

「噛まれて手や腕が傷だらけです・・・」

子犬があなたの家族の一員になったその日から、まず間違いなく、ほとんどすべての方が悩まされるのは「子犬の甘噛み」です。

犬は動くものを追ったり、じゃれたりすることが大好きです。ヒラヒラとよく動くあなたの手や腕は、犬にはなんとも魅力的なおもちゃに見えているかもしれませんね。人間が噛んで欲しくないと思っていることなんてつゆ知らず、「遊ぼうよ！」「こっち向いてよ！」と一生懸命あなたとコミュニケーションしようとしているのかもしれませんね。

子犬が噛んでくれるということは、「人間にかわいがってもらうためには、噛まずに人間と接しなければならぬんだよ」ということを教える絶好のチャンスです。噛んでくれなければ、それも教えてあげられません。

「噛まない！」は人間との関わりあいの中から

もしあなたの犬が、母犬のもと、兄弟たちと一緒にいたら、どんな生活を送っていたでしょうか？毎日、兄弟たちと転げ回って、疲れ果てるまで遊んでいるはずですね。そして「遊ぼうよ！」としつこく絡んだら「キャンキャン！」と兄弟たちは逃げて行ってしまいかもしれません。母犬に強く噛みついたら「ウウ」と冷たく唸られて、寂しい思いをするかもしれません。このような体験を通じて、どうすれば群れの仲間たちと仲良くできるのかな・・・ということを学習するのです。

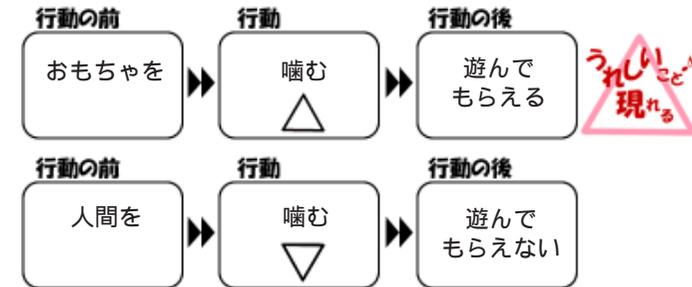
家族の一員に迎えられたあなたの犬はどうでしょうか？きっとじゃれついたり、あなたやおもちゃを追いかけたりしながら毎日元気よく遊んでいることでしょう。そんな毎日の生活の中で、人間とたくさんの関わり合いを持ちながら、どうすれば人間とうまく生活していけるのか、どう振舞えば人間に可愛がってもらえるのかを日々学習していくことになるのです。人間も子ども有的时候には、けんかをしたり、いじわるをしてみんなから遊んでもらえなくなったり、いろいろな経験をしながら大きくなりますよね。それと同じです。

あなたの犬にもそんな経験をしてもらいましょう。そしてそのために必要なこと。それは決して特別なことではありません。「毎日存分に遊んであげること」。そして、「噛んだときには、相手をしないこと(＝計画的無視)」です。

対処方法：基本の考え方

犬と遊んであげるときには、おもちゃを握って、できるだけ人間ではなく、そのおもちゃを噛むように仕向けてあげてください。楽しげに話かけたり、体を撫でたり、おもちゃを動かしたり、ときには投げてあげたりするといいですね。そして、人間の手や腕などを噛んでいない限りは、うんと楽しい時間が続くようにします。すると犬はどう感じるのでしょうか？ずーっとこのまま人間に遊んでもらいたいなあ・・・と思いますね。

でも噛んだときには、その瞬間に犬に背を向け、知らん顔をするにします(＝計画的無視)。するとどうなるでしょうか？犬にとって、楽しかった遊びの時間は一瞬のうちに消えてしまうことになります。



3つの箱と4つの法則 の読み方
おもちゃを噛んだら、遊んでもらえます。遊んでもらえるのは犬にとってうれしいことなので、「遊んでもらうためにおもちゃを噛まなくちゃ！」と学習します。人間を噛んだら、遊んでももらえません。「噛んでもムダだね・・・」と噛まないことを学習します。

噛んでもなお遊びを続けたのでは、噛む行動に対して「遊んであげる」「相手をしてあげる」という“ご褒美”を犬にあげていることになります。そこで、そのようなご褒美が与えられないように、知らん顔しておく(＝計画的無視)必要があるのです。

最初は、人間の手や腕を狙ってきたときにだけ知らん顔するところから始めてみてください。これを繰り返して「人間の手や腕を狙ったら遊んでもらえなくなるんだな・・・」ということがわかってきたときには、以前よりずっと遊び方が上手になってきているはず。そのときには、狙っているつもりでなくても噛んでしまったときや、ほんのちょっと歯があたっただけでも知らん顔してみる・・・というように、「計画的無視」する段階を徐々にあげていくといいでしょう。

ポイント1：計画的無視できる？

人間がどのように振舞うことが「計画的無視」になるのか、具体的に見てみましょう。

こんな対応していませんか？

犬を見る

噛んだときに犬を見ていたら、それだけで「注目してもらった！」と感じているかもしれません。視線をはずしたり、くると後ろを向いて犬に背を向けるといいでしょう。

犬に話しかける・犬を叱る

噛んだときに「ダメじゃないの」などと話し掛けていたら、たとえ叱っているつもりでも、「話かけてもらった！」とうれしく感じているかもしれませんね。だから、この場合、叱ることもせず、だまっている必要があります。

人間同士がおしゃべりをする

人間同士が楽しそうに話をしている傍らで、じゃれて噛んできているのなら、「入れて入れて！」とでも言っているのかもしれませんがね。犬が落ち着くまで、人間も静かにしているのがいいでしょう。

犬を払いのける

噛んでいる犬を払いのけようとするのも「触ってもらった！」と感じているかもしれません。そんなときには、噛まれる前に立ち上がってしまうように気をつけてみてください。振りほどかなければならない状況が繰り返されればされるほど、噛めば触ってもらえるんだ！と学習してしまいます。

その場にとどまって噛まれっぱなし・・・

噛んでいるのをそのままにしていますか？知らん顔を決めこんでいるつもりでも、犬があなたの手や足などを噛んでいたなら、そこにある「あなたというおもちゃ」で勝手にひとり遊び続けていることとなります。そのままにしておいてはいけませんね。その場を立ち去り、よろしくない状

況がそれ以上続かないようにする必要があります。

計画的無視は、あなたの犬に合った方法で行うことがとても大切です。たとえば、あなたの犬が一生懸命あなたの足にじゃれついてきているのに、手を隠すことで「計画的無視」しようとしても、それは計画的無視として機能していないことになります。

また、人間が何気なくしている振る舞いが、犬にとって「相手をしてもらっている」「遊んでもらっている」と感じさせていることが多々あります。それゆえ、噛まれている本人には自分のどんな振舞いが犬を喜ばせているのかをしまっているのか、なかなかわからないものなのです！ぜひご家族同士で、観察し合ってみてください。「そこで手を動かすのが遊びになってるみたいに見えるよ！」というようにお互いにアドバイスし合えば、よりの確な対処ができるようになりますね。

ポイント2：遊びの段取りを考えよう！

子犬は、とてもエネルギーがすごいですね。噴火直前のマグマのようなエネルギーを抱えている状態で知らん顔を決めこんでも、そんなことおかまいなしに飛びついたり噛んだり・・・。「本当にわかってるの？」と不安になってしまうこともあるでしょう。でも、運動量の多いボール投げのような遊びを存分にした後だったらどうでしょうか？「遊んで遊んで！」と噛んだり、飛びついたりしてきても、ちょっと知らん顔するだけで、すぐに落ち着き、遊びを再開してあげられるようになるかもしれません。

こんなときには遊びの段取りを工夫してみましょう。最初は、ボールやおもちゃを投げるなど、犬との距離を保ちながら遊べる遊びや、ガムをあげるなど、噛まれにくい方法で遊べるようにするといいでしょう。しばらく遊んだらきっと幾分かは落ち着いてきますよね！そのような状態で、あなたと向き合って遊ぶようにしてみてください。

みなさんの中には「どんなときにだって噛まないようにすることが必要

「なんだから、事前に遊ばせておこなって意味ないよ！」とおっしゃる方もいるかもしれません。遊びの段取りを考えることは、計画的無視の効果をあげるためのひとつの工夫なのだと考えてみてください。それをする事なく、なかなか効果が得られないまま噛まれ続けていたのでは、「噛めば相手してもらえるんだ！」と犬はドンドン噛むことを学習していくことになります。これではいつまでたってもゴールにはたどり着けませんね！比較的落ち着いているときに噛まずに遊べるようになってきたら、少しずつ、興奮しているときにも同じようにしてみればいいのです。

子犬はたくさん遊び、たくさん寝て大きくなっていきます。十分に遊び、心も体も満足したら、ゆすっても起きないくらいグーグー寝てくれたりするものです。さてあなたは、遊び疲れてゆすっても起きないくらいグーグー寝ている・・・自分の犬のそんな姿を見たことがありますか？「そんな姿、見たことないぞ」と思ったなら、遊びの内容や量を工夫してみることであなたの努力が報われる可能性がまだ十分あるということです！ぜひ、あなたの犬を心も体も満足させてあげられるような遊びを見つけてみてください。

参考：遊び方については、遊び方事典 (<http://www.dogparty.net/Body/j-play/index.html>) を参考にするといいでしょう。

ポイント3：おもちゃや遊びの内容を見直そう！

遊びを考えるということは、エネルギーを発散させるだけでなく、あなたと遊ぶことが何より楽しい！と感じてもらうためにもとても大切です。なぜならそれは「この人に遊んでもらうためには、噛まないように気をつけなくちゃ！」と学習していく原動力になるからです。

おもちゃを片付けよう！

犬と遊んであげるときには、出しっぱなしになっているおもちゃを全部片付けましょう。あなたが持っているおもちゃよりも、出しっぱなしに

なっているおもちゃの方が犬にとって魅力的だったら？犬は、あなたと遊ぶよりも、おもちゃと遊ぶことを選択するかもしれませんね。

より好きなおもちゃを見つけよう！

犬と遊ぶときに使うおもちゃは何でもいいと思いませんか？このときに準備するおもちゃは、犬にとって魅力的であればあるほど「この人と遊びたい！」という気持ちが犬の中に募ることになりますね。ペットショップでいくつかおもちゃを購入し、どんなタイプのものをよく噛み、好んでよく遊ぶのか、観察してみてください。

いつでも、お気に入りのおもちゃやガムを数種類準備しておきましょう。「さあ、今日はどれで遊んでみようかな」「どれが喜ぶかな！」とおもちゃを選んでから犬と遊び始めるといいですね。

ポイント4：代わりに行動を練習してみよう

ここまでは、噛んだら計画的無視をし、「噛んでいないときに遊ぶ」という方法を解説してきました。これをもう1歩前進させ、「何をしたら遊んでもらえるのか」ということをより明確に犬に教えてあげる、という方法もあります。

噛む代わりにする行動をひとつ、もしくは複数個決めましょう。たとえば「鼻でつつく」を噛む代わりに行動にしたとします。噛んだときには知らん顔をし(＝計画的無視)、鼻でつつくまで待ってみます。そして鼻でつついたら、その瞬間に遊びを再開です。この繰り返しで、「人間とスキンシップするときには、鼻でつつかなくちゃ！」と犬が学習してくことになり、それまで噛んでいたような場面で、鼻を使う可能性がぐんと高まります。

噛む行動の代わりにする行動は、犬が普段よくする行動の中から選ぶといいでしょう。鼻でつつく以外にも、すわること、なめること、前足を動かすことなど・・・何でも噛む行動の代わりにすることができます。あなたが思わずニッコリ微笑んでしまうようなかわいい仕草を噛む行動の代わり

にすると、楽しく取り組みそうですね！また、噛む行動の代わりにしようと決めた行動を、別の時間に集中的に練習(トレーニング)しておくのもおすすめです。集中的に練習しておくことで、より一層、「そうだ！」噛むんじゃないくて、**するんだ！**とすぐに気がつく可能性が高まります。

参考:このような考え方に基づいたトレーニング方法を紹介しているのが「クリッカー事例集・クリッカーで甘噛み克服！」(<http://www.dogparty.net/Body/Clicker/case/caselist.htm>)です。こちらは、ホームページより参照していただけます。

あなたの犬に合った工夫の仕方を見つけよう！

「やってみたけれどうまくいかない。この方法はやっぱり効果がないんだ、ウチの子には合っていないんだ！」と早々にあきらめてしまう前に、「うまくいかないということは、まだどこか、できていないところがあるのかな・何か工夫できないかな」と考えてみましょう。

どんなおもちゃよりも、あなたのよく動く手足の方がおもしろければ、噛むかもしれません。それなら、おもちゃや遊びの内容を見直すことで、うまくいく可能性がありますね！どんなに元気いっぱいの子犬だって、電信柱や木、柱や家具に、しつこくしつこく飛びつき「遊ぼうよ！」とじゃれ続けることなんてないはずです。あなたにじゃれて噛むことをやめないのは、「相手をしてもらってる！」と感じさせるような反応を犬に返している証拠かもしれません。「計画的無視・何かできていないことはないかな」と考えてみてもいいですね。おもちゃや遊び方を工夫すること、噛まれた後の対応を見直すこと、代替りの行動を練習すること・工夫することはたくさんありそうです！

以下はそんな工夫の一例です。どこを、どんな風に噛むときには、何をすることで、「噛まない方が楽しいよ」と教えてあげることになるのでしょうか？あなたが自分の犬に合った工夫の仕方を見つけ出す上でのピン

トにしてください！

どこを？どんな風に噛みますか？

手や腕を動かすと噛む

手や腕を噛んでくるときには、よく動く手や腕にじゃれることが楽しくてたまらないのかもしれませんがね。噛んだら手や腕を隠したり、上にあげて、それ以上遊ばれないようにするといいでしょう。

このようなときには、動くものにじゃれたいのかもしれませんがね。おもちゃを動かしながら遊んであげるとうまくいく可能性大です。

手や腕を動かしてなくても噛む・むしゃぶりつくように噛む

とにかく何かを噛みたい！というときに、ほかに噛むものがなければあなたの手や腕を噛むかもしれませんね。しかも、話しかけてもらったり、撫でてもらっていたりしたとしたら、こんなに楽しいことはないでしょう。

存分に噛めるガムを使ってみてはどうでしょうか？だっこしたり、体を撫でてあげたり、話しかけたり、スキンシップを楽しみながら、ガムを噛ませてあげてもいいでしょう。

歩いていると噛む

歩いているときに足にじゃれて噛んでくるなら、あなたの足は犬にとっておもちゃになってしまっているかもしれません。そんなときには、足を止めてみる、ということがまず必要になってきます。歩けば歩くほど、噛めば楽しいおもちゃが動き出す！と学習してしまうからです。

このようなときには、犬をおもちゃでじゃらしながら前進してみてください。あなたの横をおもちゃを噛みながら上手に前進できるようになったなら、お散歩の練習にも通じそうですね。またあなたが行きたい方向とは、逆方向におもちゃを投げることで、噛むことを防ぐこともできます。とにかくしつこく噛む！

しつこく飛びついて噛むようであれば、その場を立ち去ったり、姿を隠してしまってもいいでしょう。「部屋を出ようと歩き始めると、その足に

じゃれついてきて・・・」というのなら、犬と遊ぶ場所にも気をつけてみてください。ドアの近くで遊んだり、リードをつけて遊ぶようにし、噛んだら1歩さがって、犬から遠ざかるようにしてもいいでしょう。少しでもおとなしくなったら、褒めてあげたり、遊びを再開してあげてお忘れずに！

いつ再開すればいいのでしょうか？

知らん顔をした後、どのタイミングで遊びを再開すればいいのでしょうか？噛むのをやめたり、興奮がおさまったりしたらすぐに、何事もなかったかのように遊びを再開してあげてかまいません。再開のタイミングを見計らうために、知らん顔を決めこみながら「早く噛むのをやめてくれないかな・・・」と犬のことをそっと見てあげてください。たとえば、噛まれて背を向けたときには、犬の様子をときどき確認してみるといいですね。そして、噛むのをやめて落ち着いた頃を見計らって遊びを再開してあげます。噛まれてその場を立ち去ったときにも、こっそりと犬の様子を見てあげてください。そして落ち着いた頃を見計らって遊びを再開です。

知らん顔したまま、それっきり遊んでももらえなくなったのでは、どうすれば遊んでもらえるのかを学ぶチャンスが得られないこととなります。でも知らん顔しながら心の中で「早く噛むのをやめないかな、落ち着かないかな」と犬をよく観察し、噛むのをやめたり、落ち着く瞬間を待ち続け、その瞬間がやってきたときに遊びを再開すれば、「人間を噛まなければ遊んでもらえる！」という経験も必ずさせてあげられます。

「無視」という言葉から受ける印象から、「計画的無視」を、「噛んだら何もしない」「ほったらかしにしておく」ことだと思われる方も多いようです。でもそれは違うのです。「計画的無視」をしている時間は、見ない、話しかけない、触らない・・・というその態度とはウラハラに、あなたの心の中では、いつも以上に犬に注目していなければならぬ時間です。犬に注意を払ってあげているからこそ、噛むのをやめたり、興奮がおさまった

りしたときを逃さず、遊びを再開してあげられるのですね。

1回あたり、どのくらいの時間無視すればいいのでしょうか？

長い時間、無視をする必要はちっともありません！いくら「計画的無視」が効果的だからといって、たった数回の練習で「噛まない方がいいんだ」と学習できるわけではなく、それには、繰り返し練習することが必要です。だから、長い時間無視をして学習のチャンスを減らすより、いい子にしていたらすぐに遊びを再開し、学習のチャンスをたくさん与えてあげた方がいいと言えます。

くれぐれも、遊びを再開してあげるときには、犬が、噛んだり、飛びついたりなど、望ましくない行動をしていないことに気をつけてあげてください！「遊び」は犬にとって“ご褒美”です！噛んでいないときに遊んであげることで噛まずに遊ぶことを学習できるのと同じように、飛びついたり、噛んでいるときに遊びという“ご褒美”がもらえれば、犬は立派に飛びついたり、噛むことを学習することにもなります。

やってはいけない“甘噛み克服法”

多くの方が目にする「叱る、首根っこを抑える、無理やりひっくり返して押さえつける、鼻をピンとはじいて痛がらせる、叩く・・・」といった方法は必要ないのでしょうか？「悪いことをしたときには、やっぱりしっかり叱らないとダメだと思う」という声も聞かれます。叱ったり、押さえつけられたりすることで、犬がそこから何を学ぶのか、ということを解説しましょう。そして、犬が学ぶことが、みなさんが犬に学習して欲しいと期待していることと同じかどうか、じっくり考えてみてください。

どうすればいいかわからない！

「噛んでダメ」と犬のしていることを否定し、叱るだけでは、「噛まなければ遊んでもらえるんだよ」ということを教えてあげていませんね。あ

あなたの小さな子犬はまだ、どうすれば人間に可愛がってもらえるのかわからないのです。「遊ぼうよ！遊ぼうよ！」と噛むことがイケナイことだなんて疑いもせず、無邪気にじゃれついてきていることでしょう。そんなときに「ダメ」「イケナイ」と大きな声で怒られたり、押さえつけられても、「人間と遊んでると、突然カミナリが落ちてくるんだ・・・」とあなたを警戒しながら遊んだり、「あの人と遊んでも楽しくないんだ・・・」とあなたを避けること学習するしだけなのです。

自分の身を守らなくちゃ！

犬が学習するのは、あなたを避けることだけではないかもしれません。犬は、自分の身を脅かすような出来事に遭遇すると、そこから自分の身を守るすべを学習します。大きな声で叱ろうと犬に近づいたら、唸るようになった・・・押さえつけようと手を出したら、その手を噛み付くようになった・・・甘噛みを治そうとしたことがきっかけで、攻撃的な行動を身につけてしまったとしても、何の不思議もないのです。悲劇はそれだけでは終わりません。あなたは叱るつもりじゃなかったのに、あなたが近寄ったり、手を差し伸べたりする様子にも警戒して、唸ったり噛みつくようになるかもしれません。これでは、いい子にしてあげようとしているしつけが、犬との溝を深めてしまうことになってしまいますね。

人によって態度が変わる？！

「しっかり叱ったので、噛まなくなりました！でも、ほかの人には噛むんです。ウチの子はどうしてこうなのでしょう？頭が悪いんでしょうか？」決してそんなことはありません。あなたから叱られることで犬が学ぶのは「あなたから叱られないためにどうすればいいか」ということに過ぎないのです。だから、子どもや、お年寄りや、お客さんなど、自分を叱ったり、押さえつけたりしない相手に対しては「おっ！この人には噛んでも大丈夫だぞ！」と学習します。「ボクのこと叱るのは誰かな、誰は叱らないかな・・・」。人で区別することを学習したなんて、頭が悪いどころか、ちゃんと学習できている証拠ですね！

一方、たくさん遊んでもらいながら、「噛まない方が楽しいね」と学習した犬はどうでしょうか？子供やお年寄りに対しても、噛まずに近寄っていく可能性が高まりますね。その結果、お年寄りや子供に遊んでもらったり、撫でてもらえたら？「やっぱり噛まないと楽しいね」と噛まずに人間と接することをより一層身につけることができます。ほかの人と遊んでいる犬の後ろから、「噛まないで遊べてえらいね」と、そっと褒めてあげたり、さりげなくご褒美をあげたら？「噛まずに人間と接すること」の学習をより一層強固なものにすることができます。せっかくのあなたの犬の学習能力を、「人によって行動を変えること」ではなく、「望ましい行動を身につけること」に生かしてあげたいですね。



ワナにはまらないで！

「効果のないことなのに、どうして多くの人がそれをすすめているの？」と疑問に感じている方はいないでしょうか？その答えは、叱ったり押さえつけたりすることで得られる「即効性」にあります。

叱ったり、叩いたり、何か無理やりやめさせるという方法は、一時的には大変効果があります。きつく叱ればその瞬間に、犬は噛むことをやめるでしょう。押さえつければ、その瞬間にやめるでしょう。しかも、今みなさんが目の前にしている子犬は体も小さく、大きな声で叱られたり、叩かれたりすることに免疫がありませんね。だから、人間の大きな手でガツン

と、あるいは大きな声でドカンと叱ると、とても効果があるのです。そしてそんな経験をする事で、「やっぱりこの方法が効果があるぞ」うちの子にはこれだ！」と納得し、私たちは自然とその方法に頼りがちになってしまいます。

しかしこの「即効性の罠」にはまらないでください。なぜなら、それはあくまでも「一時的な効果」にすぎないからです。もっと長い目でみて、「人間が学んで欲しいと思っていることを、本当に学ばせてあげられるだろうか」と考えてみましょう。叱るだけでは、「噛まない方が遊んでもらえるんだぞ！」ということは教えてあげられないのでしたね。あなた以外の人には噛むようになるかもしれないのでしたね。叱ることで、攻撃的な行動を学習してしまう恐れがあるのでしたね。

犬の成長に目を向けよう！

叱ったり、押さえつけた瞬間にあなたが実感する「叱った行動を辞めてくれた」という一時的な満足感に比べて、「少しずつ噛まなくなってきたよ」と犬の成長や変化に目を留めることは、意識しなければなかなかできないことかもしれません。「おっ！いつもなら噛んできてたのに、噛まなかったぞ」「噛み方が変わってきたぞ！あんなに強く噛んできたのに、ちょっと遠慮がちになってきたかな」いつも側にいるからこそ見つけてあげられる、あなたの犬の成長にぜひ目を向けてみてください。

あなたの犬は今、「噛まないで・・・」とあなたを困らせてしまうほどに、人間に積極的にはたらきかける明るさと、あなたの手も腕も足もおもちゃにして無邪気に遊ぶ豊かな表情で満ちているはずです。そんなあなたの犬の良いところを失ってしまったのでは、何のための“しつけ”なのかわからなくなってしまいますね。ぜひたくさん遊びながら、甘噛みを克服してみてください！人間を噛まないように気をつけながら、でも生き生きとのびのびと遊んでいる・・・そんないじらしくも愛らしい表情を引き出してあげられるはずです。

子犬の甘噛み・よくある質問

 **Q.** もうすでに、押さえつけたりきつく叱って、歯をむいて唸ったりおびえるようになってしまいました。今からでも遅くないですか？

今からでも遅くありません。決してあきらめないでください！そのような経験をまったく持たない犬と比べたら、少し時間はかかるかもしれませんが、「噛まなかったら遊んでもらえるんだよ」と犬に教えてあげることにくわえて、警戒心を解いてあげる過程と時間も必要になるからです。でも今、時間をかけてでも警戒心を解いておくことはあなたと犬とのこれからの生活にとって大切なことです。

この過程で大切なことは、もう2度と決して押さえつけたり、大きな音でビックリさせたり、犬を怖がらせたり、おびえさせたりしない、ということです。ただひたすら噛んだときには遊びを中断(計画的無視)というルールのもと、犬と楽しく遊ぶことを心がけてみてください。その過程は、噛まないように遊ぶことを学習する過程であり、「人間の手は、自分を痛い目に合わせるものじゃなくて、楽しく遊んでくれるものんだ。ちっとも怖がらなくても大丈夫なんだ」とわかってもらう過程でもあります。

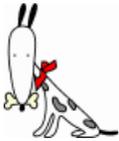
歯をむいて怒ったり、おびえるようになってしまったことは、あなたにとっても、あなたの犬にとっても不幸なことだったかもしれませんが、その経験をこれからの犬との生活にぜひ生かして欲しいと思います。これから先、甘噛みに限らず「それはやめて」と犬に言いたくなったときには、今回のことを思い出してください。「ここで手をあげたり、一方的に叱るだけになってしまったら、あのとときと同じ結果になってしまうんだな」と思いとどまることができたなら、今回のことも決して無駄ではなくなりま

す。辛い体験を糧にして「あのときのあの体験があったから、今があるんだ！」そう思えるような関係を築いて欲しいと思います。

Q. 留守番の時間が長く、なかなか遊べません。それでも大丈夫でしょうか？

犬は人間と遊び、関わり合いを持つことの中で、どうすれば人間にわかりがってもらえるのか、遊んでもらえるのかを学習していきます。噛まないように教えるために大切なのは、犬と一緒にいる時間をいかに過ごすかということであり、時間が短いからといって学習できないわけでは決してありません。たとえばこういうことです。

はなちゃんは1日中ずっと人間と一緒にだよ。留守番するのは、飼い主さんが近所に買い物へ行くときくらいかな…。はなちゃんの飼い主さんは「噛んだときに相手をしたらますます噛むようになってしまう」ということを知らないで、噛むと「はなちゃんダメじゃないの」と言いながらはなちゃんのことを見たり、「どうしたの？おやつ欲しいの？」って噛むことをきっかけにおやつをもらったりしてるんだ。



かなちゃんは、日中ずっとお留守番なの。人間と一緒に過ごす時間は4、5時間くらいしかないけれど、飼い主さんは「噛んだときに相手をしたらますます噛むようになってしまう」ということを知ってるから、噛まずに遊べるような工夫をたくさんしてるし、噛んだときには「遊んでもらっている」と感じさせないようにすることをすごく注意してるんだって。



さて、どちらの犬が甘噛みを克服できるでしょうか？たとえ一緒にいられる時間が短くても、かなちゃんは必ず克服できるはずですね！一方、はなちゃんはどうでしょうか？ますます噛むようになってしまいそうですね。それどころか、一緒にいる時間が長い分だけ、確実に「遊ぼうよって言いたいときには噛むんだ！」という学習が身についてしまいそうです。

このように、一緒にいる時間の長さより、一緒にいる時間をいかに過ごすか、ということが甘噛み克服の鍵なのです。…とは言っても、犬は「噛まなかったら遊んでもらえる！」というルールのもとでたくさん遊んだ分だけ、人間との付き合い方を早く学んでいくこととなります。したがって、できる限り遊ぶ時間を作ってあげることも大切なことだと言えます。短時間でもできるだけ毎日、犬と向かい合い、遊ぶ時間を作るといいでしょう。お休みの日など、まとまった時間が作れるときには、たっぷり遊んであげてください。

仕事や学校から疲れて帰ってきたときに、体いっぱい「元気」を貯め込んだ犬の相手をするのは本当に大変なことだと思います。ときには、眠たい目をこすりながら相手をしなければならぬこともきっとあるでしょう。でもその努力は、将来必ず実を結びます！一緒にいられる時間が短かったとしても、自信を持って犬と向き合い「短いけれどちゃんと楽しい時間にしよう！」「噛んだら遊びを続けられないことを徹底しよう」と心がけてみてください。



2. “気に入らない” ときに噛む

噛んだときには無視？

しっぽを触ろうとすると、噛み付いてくるんです。噛んだときには計画的無視がいいと聞いたので、噛んだ後には犬を見たり、触ったりしないようにしているのに、ちっともよくなりません。

かわいい服を買ってきたので、着せてあげようとしたんです。そしたら、噛み付かれてしまって…。うちの子、ちょっと気に入らないことがあると、すぐ噛むんです。計画的無視をしているのに、ぜんぜんよくなりません。

子犬の甘噛みで、噛んだときには計画的に無視をする方法をご紹介します。人間を噛んだときには、いつでも“計画的無視”だと考えていいのでしょうか？

どうして噛むの？

人間が相手をする事で「噛めば相手をしてもらえるんだ！遊んでもらえるんだ！楽しい時間が続くんだ！」と学習しているとき、その行動を“犬の言葉”にするなら「ねえねえ、遊ぼうよ！」とか「こっち向いて！」ということになりますね。そこで遊んであげたり、相手をしたのでは、「はいはい、わかったよ。遊んであげるよ」と応えてあげていることになり、犬はますます噛むことでコミュニケーションするようになります。そこで“計画的無視”なのです。噛んでいるときにだけ人間が応じないようにすることで、「噛むことで、遊ぼうよって言っても、人間は応えてくれないよ。遊んで欲しいときにこそ、噛まないようにしてごらん」というメッセージを、人間も行動で犬に伝えてあげることができます。

一方、しっぽを触られることや、洋服を着せられることが嫌いな犬が、そのような状況で噛む行動はどうでしょうか？このときの噛む行動を“犬

の言葉”にしてみるなら、「やめてよ！」ということになります。

犬は気に入らないことや、嫌なこと、苦手なことに遭遇すると、それから自分の身を守ろうとします。しっぽを触られることが、その犬にとって“いやなこと”だったとしたら、その“いやなこと”から逃れたり、その“いやなこと”に遭遇しないでもすむためにどうしたらいいか、学習することになります。どんなにかわいい服でも、犬にとって「一体何をするの？アタシ、どうなっちゃうの？！」と警戒せざるを得ないような状況に感じられていたとしたら、残念ながら、自分の身を守るために噛んだり、唸ったり、攻撃的に振舞ったり、逃げ出すことを学習することになってしまいます。

原因が違えば、対処が違う！

同じ噛む行動でも、この2つの行動の持つ“意味”はまったく違います。「ねえねえ、遊ぼうよ！」というメッセージをこめて犬が噛んでいるときに効果的な「噛んだときに無視する」という方法も、「やめてよ！」というメッセージを込めて噛んでいるときに行ったなら、「はいはい、それじゃやめますよ！」と応えていることになるのです。これでは、「噛めばやめてくれるんだ！」と学習させてあげることになり、効果がないどころか、逆効果になってしまいます。

それではどうすればいいのでしょうか？「やめてよ！」と、いやなものを自分から遠ざけるために行動を起こしている場合には、“嫌なこと”“苦手なもの”“遠ざけたいもの”と感じられていることを「楽しいことだよ！」「警戒する必要なんてちっともないんだよ」と教えてあげることしましょう！今は、嫌いだったり、気に入らなかつたりすることも、そうではなくなったら、もう抵抗する必要なくなりますね。

“嫌い”を“好き”にする方法

しっぽを撫でられる・・・好きにしよう！

1. ご機嫌にガムを噛んでいるときや、おもちゃで遊んでいるときに、体をそっと撫でてあげましょう。いきなりしっぽに触れるのではなく、最初は嫌な場所を触ってみるところから始めましょう。
2. ご機嫌にガムを噛んでいるときや、おもちゃで遊んでいるときに、徐々にしっぽに近い場所を触れるようにしていきましょう。
3. ご機嫌にガムを噛んでいるときや、おもちゃで遊んでいるときに、しっぽをそっと触ってみましょう。最初は触れるフリをするだけでもかまいません！
4. ご機嫌にガムを噛んでいるときや、おもちゃで遊んでいるときに、徐々によりしっかりとしっぽを触るようにしていきましょう。
5. ガムやおもちゃを渡す前に、しっぽを触ってみましょう。いやがらなかったら、ガムやおもちゃを渡すようにします。

服を着る・・・好きにしよう！

1. ご機嫌にガムを噛んでいるときや、おもちゃで遊んでいるときに、服で体をそっと撫でてあげましょう。
2. ご機嫌にガムを噛んでいるときや、おもちゃで遊んでいるときに、より長い時間、服で触れるようにしてみましょう。
3. ご機嫌にガムを噛んでいるときや、おもちゃで遊んでいるときに、服を体にかけてみましょう。最初は、ほんの一瞬かけるだけでかまいません。
4. ガムやおもちゃを渡す前に、服をかけてみましょう。いやがらなかったら、ガムやおもちゃを渡すようにします。
5. ガムやおもちゃを渡す前に、服をかけてみます。少しずつ服をかける時間を延ばしながら、いやがらなかったら、ガムやおもちゃを渡すことを繰り返します。
6. 服を着せてみましょう。着せた後でガムやおもちゃを渡して、楽しく

遊んであげましょう！

“好き”の作り方！・・・そのコツ

この2つの手順には共通している特徴があることにお気づきでしょうか？

特徴1：好きなものと組み合わせる

いずれも、好きなものと組み合わせていますね。犬は、好きなことや楽しいことと一緒に体験されたことを、好きになっていくのです。

少しずつ慣らす

いずれも、いきなりしっぽを触ったり、いきなり服を着せたりしていませんね。触る場所をしっぽに近づけていったり、いきなり強く触るのではなく、そっと触れることから始めたり、少しずつ慣らしています。好きなものと組み合わせるにしても、嫌がっているところに無理やり、好きなものを突きつけるようなやり方では、ちっとも楽しい気分になってもらえないのです。それどころか、ますます嫌いになってしまうかもしれません。

練習の進め方も「少しずつ」です。たった1回の練習ですべてのステップを完了しよう！なんて決して思わないでください。せっかく買って来た洋服を早く着せてみたい気持ちもきっとあるでしょう。でも長い目で見れば、慣らす過程に時間と日数をかけることは、「洋服嫌い」にさせてしまったり、「いやだいやだ！」と噛みついたりする行動を学習させないようにする、という点から言って決して無駄ではないのです。

犬が遊びたくてたまらない！といった様子のときに3分から5分程度練習してみてください。日に何回か練習タイムを設けてもかまいません。できれば毎日練習できるといいですね。最初は、ガムを噛みながらも、体を撫でたり、洋服を近づけるあなたのことをチラチラ見たりするかもしれませんが、繰り返すごとに、チラチラ見る頻度が低くなっていきたり、気にしなくなるまでの時間が短くなっていきたりするかもしれません。そんな小さな犬の変化に目をとめ、あなたの大きな励みにしてみてください！

好きでいっぱいになりましょう！

せっかく何かしてあげようと思っているのに、いやがって噛み付き、自分の元から去られてしまうと、腹立たしく感じるものですよね。そしてそんなとき私たちは「たとえ気に入らないことに遭遇したとしても、絶対に歯向かわないようにさせなければ・・・」と気負ってしまいます。

そんなときにはこんな風に考えてみてください。何かを嫌がって噛んだり、唸ったりすることは、決して良い行動ではありません。でも、噛みついたり、唸ったりしてでも、それを遠ざけようとしているということは、それだけ犬にとってそれが“いやなこと”である証拠なのです。噛みつかれたり、唸られたりするあなたもきっと辛いでしょう。でも、そうせざるを得ないほどのことに遭遇している犬も、同じように辛いのかもかもしれません。

これからは、何かを遠ざけようとする素振りが見られたらそのたびに「この子はまだ、これが苦手なんだな」と理解し、「これを好きにしてあげられないかな」「本当は楽しいものなんだよ。あなたに危害を加えるものじゃないんだよ」と教えてあげられないかな、と考えてみてください。それが伝えられたなら、あなたの犬はもう噛みついたり、唸ったり、逃げ出したりする必要なくなるのです。

あなたのはたらきかけで、ひとつでもたくさんの“嫌い”や“苦手”が克服できるといいですね。最初は遠ざけようとばかりしていたものに、犬が自ら、自信に満ちた表情で近づけるようになったときには、苦手を克服していく強さとたくましさをも身につけることができたことを心から喜んであげてください。それと同時に、そんな強さを犬から引き出してあげたのは、あなた自身であることをどうぞ忘れないでください。きっとこれから先、どんな“苦手”に遭遇したときも、「きっとこれも“好き”にしてあげられるはず・・・」と自分の犬の力を信じてあげられそうですね。あなたの犬がいつまでも、たくさんの“大好き”に囲まれ、楽しく、のびのびと、幸せに暮らしていけますように。

PART2: 物を噛む

3. 代わりの物を探してみよう

犬は噛むことが大好き！

靴下、スリッパ、椅子、トイレシート・・・身の周りのものを噛んで、ボロボロにしてしまったり、おもちゃにしてしまったり・・・人間を噛むことと平行して、まず間違いなく悩まされることのひとつですね！

人間を困らせてしまうほどに、犬は噛むことが大好きです。そして「それ、噛むのやめてくれないかな」と思いはじめると、「また噛んでる！！」とその場面ばかりが目についてしまうものです。でも逆に「いつだったら、噛んでいないだろうか？」と問題が起きていないときに注目してみてください。そこに、この問題の解決のカギがあるのです。

「噛んでいないとき」はいつ？

どんなに噛むことが大好きな犬でも、24時間ずっと噛んでいる・・・なんてことはありえませんよね。噛まないのはどんなときですか？おなかいっぱいごはんを食べた後はどうですか？ガムを1本噛み終わったとき？散歩で疲れて帰ってきたとき？思いっきり遊んだ後はどうでしょうか？

よく噛むものと、あまり興味を示さないものがありますか？どんなに噛むことが大好きな犬だって、犬の身の周りにあるすべてのものを同じ頻度で噛んでいるわけではないはずです。

噛まないときもある！噛まないものもある！ということは、犬が自ら「噛まない選択」をすることもあるということです。それならば、あなたが噛んで欲しくないものに対して、犬が自らから進んで「それは噛まないよ」と噛まないことを選択してくれたなら、無理やりやめさせることなく、問題を解決することができそうですね。

「噛まない」選択

犬が「噛まないよ」と選択する時とは、どういう時なのでしょう？その答えはとてもシンプルです。「噛みたくないとき」です！そんなこと当たり前じゃないか！と憤慨している人がいらっしゃるかもしれませんが、「もう噛みたくないんだ」と犬に思わせてあげられる方法がある、と言ったらどうでしょうか？そしてそれは意外と簡単にかなうことなのです。

想像してみてください。犬の中に、いくつものバケツがあります。“遊びたい”のバケツ、“眠りたい”のバケツ。“噛みたい”のバケツ。“食べたい”のバケツ。“人間から注目されたい”のバケツ。それは、犬の“欲求のバケツ”です。犬はみな、このバケツを満たしながら生きています。お腹がすいて“食べたい”のバケツがからっぽになったら、食べることでバケツをいっぱいにしてしまいます。“眠たい”のバケツがからっぽになったら、眠ることでバケツをいっぱいにしてしまいます。“噛みたい”のバケツがからっぽになったら、何かを噛んでいっぱいにしてしまいます。

欲求のバケツがいっぱいになると、犬は“満足”です。そしてもはやそれをする必要がなくなります。おなかがいっぱいになったら、もう食べたいとは思いませんね。ぐっすりよく寝たら、眠る必要はなくなります。屋外で体を動かし、あなたと存分に遊んで帰ってきた後には、“遊びたい”のバケツも満タン。そんなときの様子は、遊びたくてウズウズしているときの犬の様子とは明らかに違うはずですよ。

バケツをいっぱいにして！

どんなに噛むことが大好きな犬にも、噛まない時間がありましたね。大きなガムまるまる1本夢中になって噛み続け、「ふっ、満足満足・・・」そんな表情を見せているとき、それは、“噛みたい”のバケツがいっぱいになった瞬間です。そのときの様子は、「何か噛めるものはないかな・・・」と家中を物色しながらウロウロしているときの様子とは違うはずですよ。

“噛みたい”のバケツがいっぱいになったら「もういいよ。もう噛まな

いよ。だって噛みたくないんだもの」と犬は自ら「噛まない選択」をするようになるのです。それならば、噛んでしまっただけで困るものに手をつける前に、噛んでもかまわないものでバケツをいっぱいにしてあげたらどうでしょうか？あなたの悩みは解決されますね。

ガムやおもちゃを選ぼう

ペットショップには、たくさんのおもちゃや、ガムが売られていますね。それらは犬の欲求、つまり“バケツ”を満たすために役立ちます。あなたも、あなたの犬のバケツを満タンにしてあげるためのおもちゃやガムを見つけてあげましょう。

何を買えばいいのかわかりません！

ペットショップには、たくさんの種類のおもちゃやガムが並んでいます。その中からどれを選べばいいのか、迷ってしまいますよね！そこで「これを買えば、あなたの犬のバケツがきつといっぱいになるはず！」というおもちゃやガムの選び方をお教えしましょう。

まずは、噛んではいけないものを噛んでいるときの様子をよく観察してみましょ。そして、「噛んでしまったら困るのに、噛んでしまっているもの」と似た特徴を持つおもちゃやガムを探すのです。

素材

噛んでいるものの素材をチェックしましょう。

- 椅子の足など、木製のものを噛んでいるときには、木のような感触のものを噛みたいのかもしれませんが、そんなときには犬用の木製おもちゃを喜んでくれる可能性が高そうです。

注意： 枝や、爪楊枝、割り箸など、木でできているものは、かじってかけらを飲み込むと、とがったかけらで内臓を傷つける恐れがあり危険です。ペットショップなどに売っている犬用の木製のおもちゃを与えてみるようにしましょう。犬用のものを与える場合にも、噛んでいる様子をよく観察し、むしゃむしゃ食べたりしないかどうか確認し、危険があると思ったら、与えないようにすることも大切です。

- プラスチックのようなものを噛んでいるときには、硬いものを噛みたいのかもしれませんが。牛皮などの固めのガムがいいかもしれませんね。
- あなたの大事なセーターに夢中になっているなら、毛足の長い犬用のぬいぐるみなどがいいかもしれません。
- タオルをくちゃくちゃしているなら、タオル地でできた犬用のぬいぐるみはどうでしょうか？

大きさ

噛んでいるものの大きさをチェックしましょう。小さなものを両手で抑えて器用に噛むことが好きな犬もいるでしょう。自分の体より大きいのは？！というくらい大きなものど“格闘”することが好きな犬もいるでしょう。

似たような種類のおもちゃやガムでも、さまざまな大きさのものがあります。好む大きさのものを購入することで、「噛んではいけないものかわり」になる可能性は高くなりますね。

遊び方

噛んではいけないものをどうやって遊んでいるかもチェックしましょう。ひっぱってる？くちゃくちゃ噛んでる？ちぎってる？首を振って振り回してる？

- トイレシートをくちゃくちゃ噛んでいるときには、きっと「くちゃくちゃ噛みたい」気分ですね。くちゃくちゃ噛める牛皮のガムや、アキレス腱、ひづめ、豚の耳など、噛むものを準備してあげるといいでしょう。
- 冷蔵庫にかかっているタオルをひっぱってみたり、ハンガーにかかっている洋服に飛びついてひっぱっているようなら、ひっぱって遊べるようなロープや長いおもちゃを準備してひっぱりっこで遊ぶといいですね。
- スリッパに向かってお尻をあげてしっぽを振って、「遊ぼうよ！」とじゃれつくように遊んでいるなら、犬用のぬいぐるみを変わりにするといいですね。キューキュー鳴るタイプのぬいぐるみを使えば、より刺激的で楽しい遊びになるかもしれません。

参考:音のするぬいぐるみを使った場合、聞きなれない音にビックリしてしまうことがあります。そんなときにも「この子には向いてないんじゃないか?！」と早々に取り上げてしまう必要はちっともありません!最初は警戒していても、次第に慣れ、楽しく遊べるようになっていきます。そのような音に慣れていくことも子犬にとっては大切な社会化のひとつです!(社会化については、第4章で解説します。)

参考:時間によって、噛んでいるものの特長が違う、ということもあるでしょう。その場合には、複数種類そろえる必要があります。

バケツは空になっていく・・・

いったんいっぱいになったバケツも、時間が経つにつれ、どんどん空になっていきます。おなかいっぱい食べて満足感が得られても、時間がたてば少しずつ“食べたい”のバケツは空になり、また食べたくくなりますよね!“噛みたい”のバケツも同じです。時間が経ってバケツが空になってきたら、そのときにはまた何かを噛み始めるかもしれません。噛んだら困るものを噛んでいるときには、「バケツからっぽになっちゃっただね」と考えてみてください。そして「どうしたらこの子のバケツ、いっぱいにしてあげられるかな」と、代わりのものを見つけてあげることに力を注いでみましょう。

叱らなくていいの?

バケツがいっぱいにならないまま、ただ「噛んだらだめ」と言われ続けていたらどうなるでしょうか?叱られることで、たしかにそれは噛まなくなるかもしれませんが。あなたの前では噛まなくなるかもしれませんが。でも、バケツは空っぽのままです。満たされないから、また何かを噛もうとします。新たに噛み始めたものが、またまたあなたにとって都合の悪いものだったら?あなたはまたそれに対して犬を叱らなければならなくなりそうですね。

いくら叱っても、バケツをいっぱいにならない限り解決しないのです。しかも、叱られることで、隠れて噛むようになってしまったのでは、やめてもらおうとますます難しくなってしまうですね。

あなたの犬のバケツはどのくらい？

バケツを満たしてあげるために、何をどのくらい噛んだらバケツがいっぱいになるのかを、把握してあげることが大切です。それがあなたの犬のバケツの大きさです。バケツの大きさは犬によってみんな違います。となりの家の犬が、ほんの10分、ガムを噛むだけで満足するのに、あなたの犬が1時間、ガムを1本噛みつくすまで噛まなければ満足しない、なんていうことがあったとしてもちっともおかしなことではないのです。大切なことは、自分の犬のバケツの大きさを知り、あなたの犬にピッタリのものや時間を考えてあげるといことです。

参考：子犬は、よく食べ、よく寝、よく遊び、よく噛み、大きくなっていきますね。その小さな体に似合わず、欲求のバケツはとても大きいと言えます。成犬らしい落ち着きを見せ始めるころになると、バケツは小さくなっていき、より短時間の遊びで満足できるようになっていきます。

いったんいっぱいになったバケツは、どのくらいの時間で空っぽになるのか、それも把握しておきましょう。そうすることで、「もうそろそろ、あのガムをあげないと、噛まれちゃ困るものを噛まれてしまうな・・・」と予測ができるようになります。予測できるようになると、噛み始める前に、代わりのものを与えてあげることができるようになります。

そしてそれは、噛んではいけないものを噛むことを習慣化させないためにも大切です。噛んではいけないものを噛み始めた後で、ガムやおもちゃが出てくる経験を繰り返すと、噛んではいけないものを噛むご褒美に、ガムやおもちゃをもらうこととなります。その結果、噛んでは困るものを噛むことも学習してしまうかもしれないからです。

私たちの“バケツ”

さて、あなたの中には、どんな“バケツ”がありますか？そしてそれはどのくらいの大きさでしょうか？とても大きな「おしゃべりしたい」のバケツを持った人は、お友達のたくさんいる、明るくて楽しい人かもしれませんね。そして、その大きなバケツを満たすべく、お友達と出かけたり、食事をしたり、飲みに行ったりすることが多いかもしれません。そんな人が、何かの事情で人と会うことができなくなったらどうするでしょうか？電話したり、メールしたり、手紙を書いたり・・・「人と会う」代わりになる手段を見つけて、「おしゃべりしたい」「人と関わりたい」のバケツをいっぱいにしよときっとするはずです。バケツを満たすための「代わり」のもの（手段）を見つけようとするのは、人間も一緒です。

私たちは犬ではありません。だから、犬がどんなに噛みたくて仕方ないのか、犬が感じているのと同じように実感し、わかってあげることはできません。でも、犬が何かを噛んでいるそのときの気持ちは、ひょっとしたら私たちがおしゃべりしたくてたまらないときの、あの気持ちと同じかもしれない！・・・そんな風に考えることはできそうです。

噛みたい欲求を満足させるためのおもちゃやガムを見つける、という解決方法は、「大事なものがボロボロにされちゃう！」という“人間にとっての問題”を解決するのに最良の方法です。でもそれと同時に「靴下や椅子の足を噛むことでしか、噛みたい欲求を満たせないんだ！」という“犬にとっての問題”を解決してあげるための最良の方法でもあるのです。相手（犬）の困っていることを解決してあげることで、自分（人間）の困っていることが自然と解決されるなんて、こんなにいいことはありませんよね！そしてそんな方法でなら、問題を乗り越えるごとに、犬と仲良くなれそうだと思いますか？

4. 環境を変えよう

噛んだときには無視？

噛んだときには計画的無視がいいと聞きました。私の大事な皮のカバンを噛んでいたの、計画的無視を実行しました。私のカバンを噛んでいるときには、犬を見たり、触ったり、一切しないで知らん顔しています。なのに、カバンを噛むこと、やめてくれないんです。

子犬の甘噛みで、噛んだときには計画的無視をする方法をご紹介します。人間ではなく、噛んではいけない“物”を噛んだときには、どうすればいいのでしょうか？やっぱり無視なのでしょう？

計画的無視するのはだれ？

計画的無視が効果的なのは、人間が相手をする事で「噛めば相手をしてもらえるんだ！遊んでもらえるんだ！楽しい時間が続くんだ！」と学習しているからです。噛む行動に対して「相手をする」というご褒美を犬にあげない、つまり噛んだ後には計画的に無視をし、そのかわり、噛まずに遊んでいるときに「相手をする」というご褒美を犬にあげることで、「噛んでもちっともいいことないんだね。噛まない方が楽しいね」と、噛まずに遊ぶことを学習できるのです。

それでは、物を噛んでいるときにはどうでしょうか？このとき、犬が相手をしてもらっているのは、人間ではなくカバンなどの“物”なのです。計画的無視によって噛むことをやめさせるとしたら、犬を無視しなくてはいけないのは、あなたではなく、カバン（物）です！

環境を変えよう！

でも物に無視をお願いするなんてことできませんよね。そこで大切になってくるのが「環境を変える」ということです。環境を変え、噛んでは困るものにアクセスできないようにすれば、「これを噛むとすごく楽しん

だ！」と噛んではいけないものや、おもちゃにして欲しくないものと楽しく遊ぶことを学習してしまうことを防ぐことができます。

環境を変える・・・そのアイデア

卓上のこまごまとしたものは、小物入れに入れるといいですね。引き出し式ののものや、フタのついているものがおすすめです。お気に入りの入れ物で、机の上のを整理できたら、「環境を変えること」は犬のためだけのことでなくなるかもしれません！

思えば私も犬を暮らし始めてから、机の上がきれいになりました。



ゴミ箱は、足元など犬の手の届く場所ではなく、卓上に置いておけば、いたずらされなくてもすみますね。

私はこんなバケツ型の容器をゴミ箱にしています。買い物しながら「これ、卓上のゴミ箱にどうかな・・・」なんて考えるのも楽しいですね。



フタのあるタイプのゴミを、使ってみてもいいでしょう。台所など、卓上にゴミ箱を設置できない場所にいいですね。

ゴミ箱を引き出しや棚の中にしまってしまう！という手もあります。



いたずらされては困るものや、危険なものは、そのまわりをサークルで囲ってガードすることができます。ストーブや扇風機、蚊取り線香・などなど。サークルを「犬を囲って置くもの」として使うのではなく、「危険なものを囲っておくもの」として使うことで、より広い安全な生活空間を犬に作ってあげることができます。



コンセントやケーブルをいたずらすると危険ですね。壁づたいにサークルを置き、壁とサークルの間をはわせるようにするといいでしょう。



入って欲しくない場所に、サークルを設置するといいでしょう。サークル付属のジョイントではなく、大きめのクリップでとめておけば、開け閉めも容易になります。



部屋の仕切りのほか、玄関に設置して飛び出し防止に使うこともできます。

それと同時に、入れないスペースより、犬の過ごすスペースの方が、犬にとって魅力的な場所になるように工夫してあげてください。おもちゃやガムをあげたり、遊んであげたり。「ここにいたいな！」とそう思えるような場所になるようにするといいですね。

2つの歯車

環境を変えることで、あなたの悩みが解決されるといいですね！そのためにも、もうひとつ大切なことがあります。それは、代わりのものを与えてあげるといことです。(詳しくは、「3 代わりのものを探してみよう」で解説しています。)もし、代わりのものが与えられないとどうなるでしょうか？せっかく環境を変え、おもちゃにされては困るものを犬から遠ざけようとしても、それで遊びたくて遊びたくてたまらなければ、よじ登ったり、こじ開けたり・・・何としてでもそれを手に入れようと、一生懸命になってしまうかもしれません。

環境を変えることで、おもちゃにされては困るものを「これで遊ぶと楽しいね！」と学習させないことができます。代わりのものを与えてあげることで、「こっちで遊ぶ方が楽しいね！」と学習させてあげることができます。「環境を変えること」と「代わりのものを与えてあげること」は、車の両輪のような関係なのです。そしてこの2つがうまく機能したとき、「いい子への道」を確実に前進できるようになります。

できることから始めよう！

そして環境を変えるときには、人間にとっても快適な環境を作る、ということもどうぞ忘れないでください！犬に合わせようとして人間が無理をしたのでは、今度は、人間にとって快適ではなくなってしまいます。すべてが整った「完璧な環境」である必要はないのです。「困ったな」と思ったら、そのたびに足をとめ、今の環境に何かひと工夫してみることで解決できないかな、と考えてみてください！ご家族みなさんと、犬を囲み、楽しく知恵を絞って見るといいですね。

犬のために生活を変えなきゃいけない？

もしあなたが、「犬のために自分の生活を変えるなんてことできない！」「環境を変えなくたって問題が起きないように犬にすることがしつけ」なんじゃないだろうか？」と思われるなら、こんな風に考えてみてください。

私たちは、犬に限らず新しい家族を迎えるとき、「環境を変える」ということを自然にしています。子供が生まれたら、子供のためにベビーベッドを買いますね。子供がつかまり立ちをするようになったら、危険なものを手の届かないところにしまったり、机や家具の角で頭をぶついたりしないようにガードしたりするでしょう。

家族が歳を重ねていくごとに「環境を変える」ということもします。子供が小学校に入学したら、勉強しやすいように机を買ってあげるかもしれません。子供部屋を準備してあげるかもしれません。お年寄りのいらっしゃる家庭では、階段やトイレ、お風呂場に手すりをつけたりするかもしれませんね。私たちは、家族のライフステージや、ライフスタイルに合わせて環境を変えることで、快適で安全な暮らしを実現しているのです。

犬という家族を迎えたときに、ゴミ箱にふたをつけたり、サークルを使ったりすることは、「相手が犬だからしなければならぬ特別なこと」「人間が払うべき犠牲」ではないのです。それは大切な家族に対する“思いやり”であり、「ひとつ屋根の下、仲良くやっていこうね」そんな気持ちを形にしたものなんだと考えてみてください。



5. トイレシートを噛んでしまうときには

どうして噛むの？

「せっかくトイレに敷いた吸水性のトイレシートも、ビリビリにやぶいたり、くちゃくちゃ噛んで食べてしまったり、トイレの用を全く果たさない！」そんな悩みを抱えている方も、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか？人間が「トイレ」のつもりで置いているトイレシートも、ちぎったり、くちゃくちゃ噛んだり、とっても魅力的な「おもちゃ」にしか見えていないかもしれませんね。

あなたの犬がトイレシートで遊んでしまっているときには、「ちぎったり、噛んだりしたくてたまらないんだな！」と考えてあげてください。そして、トイレシートではなく、ちぎったり、噛んだりしてもかまわないおもちゃで、その欲求を満たしてあげられないかな、と考えるのです。ちぎったり、噛んだりしてもかまわないおもちゃやガムで十分に満足できていれば、もうトイレシートをちぎったり噛んだりする必要はなくなりますね。

代わりのおもちゃやガムを見つけよう

あなたの犬は、トイレシートでどんな風に遊んでいるのでしょうか？ビリビリ引き裂いて遊んでいる犬は、何かをちぎって遊びたい気分なのかもしれません。クチャクチャ噛んでいる犬は、噛みたい気分なのかもしれません。牛皮・アキレス腱・豚のハナ、ミミ・ヒヅメ・ナイラボーンなどの噛むおもちゃやガムは、噛みたい気分を満たしてあげるのに最適です。紙風船にフードを入れたものや、紙飛行機など、ビリビリちぎって遊ぶことのできる紙のおもちゃは、トイレシートをちぎって遊んでいる犬に適したおもちゃになるかもしれませんね。(紙を飲み込んだりしないかどうか、よく観察した上で与えてあげましょう。)あなたの犬がしっぽをフリフリ喜ぶ「トイレシートよりも魅力的なおもちゃやガム」「トイレシートの代

わりになるおもちゃやガム」を見つけてあげるといいでしょう。

魅力的にするために

「おもちゃやガムをあげてみたけれど、それよりもトイレシートがいいみたい・・・」そんなときにはどうすればいいのでしょうか？そんなときにも決して諦めないでください。あなたが犬のために準備したおもちゃが、その犬にとって「遊びたい」と思えるような魅力的なものにするために何か工夫ができないかを考えてみましょう。

おもちゃは、出しっぱなしにしないようにしよう

おもちゃやガムは、出しっぱなしにしておくのではなく、遊び終わったら必ず犬の目に触れないような場所にしまっておくようにしましょう。そして、犬が活動的になってきて「もうそろそろ、トイレシートを噛むにちがいない！」と思ったときに、そのおもちゃをやガム渡してあげるようにするのです。いつでも手の届くところにあるものには、慣れきってしまったり、ありがたみを感じなくなるものですね。ときどきしかもらえないものだからこそ、そのおもちゃで遊びたい、という気分になってもらえるのです。

ローテーションさせよう

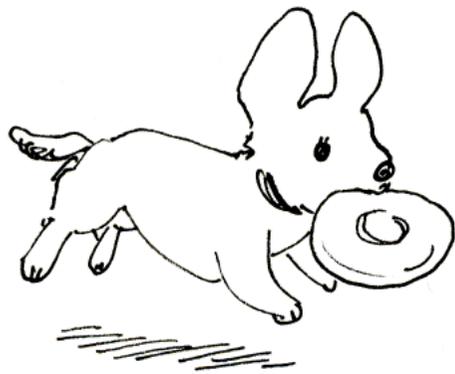
おもちゃやガムは何種類か準備して、交代で与えてあげるようにしましょう。いつでも同じおもちゃやガムばかりでは、飽きてしまうもの早いかもしれません。でも「昨日はAのガム、おとといはBのおもちゃ、だから今日はCのガムにしよう！」というように、与えてあげるガムやおもちゃをローテーションさせるようにすれば、飽きにくく、犬にとって与えられたガムはより魅力的なものになります。

おもちゃやガムはどのタイミングであげる？

もっとも望ましいのは、トイレシートを噛み始める前、「もうそろそろ怪しいぞ！トイレシートで遊び始めるんじゃないかな」と思ったときに与えてあげるといことです。トイレシートを噛んでいるときに、おもちゃやガムが与えられる経験が繰り返されると、トイレシートを噛んでいることに対するご褒美としておもちゃやガムを与えてあげていることになり、トイレシートを噛むことを助長させてしまう可能性があるからです。

しかしながら、前もっておもちゃやガムを渡すことができず、トイレシートを噛み始めてしまったらどうすればいいのでしょうか？このときには、名前を呼んだり、おもちゃやガムで誘導しながらさりげなくトイレシートのある場所から離れるように仕向けてあげましょう。そして代わりとなるおもちゃやガムを渡してあげます。そしてこのときには「次こそは、噛み出してしまう前にこのおもちゃやガムを渡してあげよう」と決意を新たにしてください！人間も、最初から「犬のトイレシートを噛み始めるタイミング」を予測できるわけではありません！それでも、お昼寝から目覚めた後や、ゴハンの後、はしゃぎ始めたとき・・・など、何の後にトイレシートを噛み始めたのかな、ということを書き、カレンダーの片隅にメモしていくことで、傾向をつかみやすくなっていきます。そして

自分の犬の行動パターンを把握できるようになると、トイレシートを噛む問題に限らず、問題が起きる前に先回りして望ましい方向へ導いてあげることができるようになります。



叱らなくていいの？

トイレシートを噛んでいるときには、叱る必要はないのでしょうか？たとえば「No」です。あなたが叱ることで、たしかにあなたの犬はトイレシートを噛まなくなるかもしれませんが、でもそのときには、あなたの目の前では噛まないけれど、目を盗んで噛むようになるかもしれません。あなたの目の届かないときにだけトイレシートを噛んでしまうのでは、ますますやめさせてあげることが難しくなってしまいますね。また、どんなに叱られても、遊びたくて遊びたくて仕方がなければ、一時的にはやめても、またすぐにトイレシートで遊んでしまうかもしれません。

「トイレシートで遊んで欲しくない」と思ったときには、叱ることに一所懸命になる代わりに、「どうしたらトイレシートよりも魅力的な楽しいおもちゃを提供してあげられるだろうか？」ということに知恵を絞って欲しいのです。トイレシートを噛むことで満たそうとしている「ちぎりたい」「噛みたい」「遊びたい」という欲求を、望ましいかたちで満たしてあげられれば、あなたの悩みは解消されるのです。

「うちの子は、こんなおもちゃを喜ぶんだね」「うちの子、このガムお気に入りなんだ！」どうぞ楽しみながら、トイレシートなんかにも目もくれないような「大好きなおもちゃやガム」を見つけ出してあげてください。その過程は、トイレシートを噛まないようにするという目的を達成する過程であり、同時に、あなたがあなたの犬の好きなものを把握し、自分の犬と上手く付き合っていけるようになる過程でもあるのです。

トイレシートを噛んでしまうときにはよくある質問

Q. ガムは生後何ヶ月くらいから与えることができますか？

子犬に歯が生え始め、身の回りのものを噛んだり、かじったりするようになったら、噛んでもかまわないおもちゃとして犬用のガムを与えてあげてかまいません。

ペットショップには、たくさんの種類のガムが売られています。牛皮、ヒズメ、豚の耳・・・。ミルクやビーフなど、風味を添加しているものもあります。どれを与えてあげればいいのか迷ったら！子犬にはまず、風味が添加されていないプレーンな牛皮のガムを与えてみてあげるといいでしょう。はじめて口にするガムにおなかを壊したりしないように、様子を見ながら与えてあげてください。



第3章 吠える・鳴く

1. 子犬の甘え鳴き

どうして子犬は鳴くのでしょうか？

「うちの子犬は寝ているか、鳴いているかどちらかです。始終サークルから出して！と鳴いています。育犬ノイローゼになりそうです。。」

「人の姿が見えなくなるだけで吠えて吠えてもう止まりません。トイレにも行けません・・・。」

「夜鳴きがひどくてまっています。睡眠不足で家族全員フラフラです。」

噛み癖と並んで、多くの方が悩まされるのが、子犬の「泣く」「吠える」の問題です。とても残念なことですが、始終鳴いたり、吠えたりしている子犬を目の前に、こんなはずじゃなかったのに・・・どうして飼っちゃったんだらう・・・というような声も聞こえます。

もしあなたが今、こんな気分だったら、次のように考えてみてください！

あなたの子犬は、親や兄弟たちと別れ、たったひとりでああなたの家に来てきました。さびしいかもしれませんね。誰かにかまってもらったり、スキンシップをして欲しくてたまらないかもしれないですね。そんな気分有的时候に、人間を困らせてしまうほど一生懸命人間のぬくもりを求め

ようとするあなたの犬は、健康な心の持ち主です！

1日中ひとりぼっちでサークルの中にも平気、スキンシップを全く求めず、遊ぶこともせず、小屋の奥にひきこもってばかり・・・という方が心配なくらいです！

しかし、1日中鳴きっぱなし、吠えっぱなしでは困りますね。どんな対処をすればいいのか、順に見ていきましょう。

こんな対応は絶対にしないで！

まずは、絶対にやって欲しくない対応を見てみましょう。

叱らないで！

叱ったり、叩いたり、大きな音を立てて脅したり、犬に不快な思いをさせることによって、鳴いているのをやめさせようとはしていませんか？これはやってはいけません。

あなたは、何をやめさせたいのでしょうか？鳴いたり、吠えたりすることをやめて欲しいのですね。甘えたり、人間とコミュニケーションしようとすることはどうでしょうか？決して悪いことはないですね。むしろ、鳴いたり、吠えたりするのではなく、もっと望ましい形でなら、コミュニケーションしてくれることは、人間にとっても好ましいことですよね。

叱ったり、叩いたりすることで、犬は鳴かなくなるかもしれませんが、でもそのときには、人間とコミュニケーションすることまでやめてしまうようになるかもしれません。いつ叱られるかと、始終びくびく、人間の顔色をうかがってばかりいる犬になるかもしれません。「これ以上、叩いたり、叱ったりしないで！」とうなったり、噛み付いたり、あなたに対して攻撃的になるかもしれません。これでは困りますね。

鳴いたり、吠えたりすることに、過剰に感じないで！

鳴いたり、吠えたりしたときに、「どうしたの？」と応じたり、サークルから出してあげると鳴きやみますね。とにかく鳴き止んで欲しい！吠え止んで欲しい！と犬の要求に応じる前に、考えてみてください。あなた

が、犬の要求に応じることで、かまって欲しいときには、鳴けばいいんだ！吠えればいいんだ！と犬は確実に学習しています。そしてますます、かまって欲しいときに鳴いたり、吠えたりするようになります。



鳴いたり吠えたりしたら、サークルから出してもらえます。このときのこの犬にとってサークルから出してもらえることはきつううれしいことですね！だから、「サークルから出してもらうためにはうんと鳴かなくっちゃ！大きな声で吠えなくっちゃ！」と学習します。

このときに大切なのは、人間は応じていないつもりでも、結果として犬が鳴いたり吠えたりした後に、犬の願いが叶うと、それを学習してしまうということです。

例) あなたが部屋を出た途端に、サークルの中にいた犬が鳴き始めました。用事が済んで部屋に戻ると、犬も鳴きやみました。

あなたは、用事が済んだから部屋に戻ってきたのであって、鳴いている犬をなだめようとして戻ったのではないですね？それでも結果的には、以下が成り立ってしまいました。



鳴いたり吠えたりしているうちにあなたが戻ってきます。これは犬にとってうれしいことに違いありません！だから、「戻ってきて欲しいときには、鳴かなくっちゃ！大きな声で吠えなくっちゃ！」と学習します。

人間が意図していなくても、犬は「鳴けば人間が戻ってきてくれるんだな！」と勘違いして学習してしまうかもしれないのです。そして、ますます姿が見えなくなると鳴くようになりますね。

対処方法1：生活環境を整えよう！

ダンボールに入れっぱなしにしないで！

もしあなたの子犬が1日中ダンボールの中で過ごしているなら、一刻も早くサークルを買ってきて、周りの様子がよく見えるようにしてあげましょう。これだけのことで、鳴いたり、吠えたりしなくてもすむようになることは多々あります。

ひとけのない部屋にひとりぼっちにしないで！

人の出入りのない部屋に犬の生活するサークルやケージを置くのはやめましょう。家族が集うリビングや居間などにサークルを置いてあげるといいでしょう。人が近くにいることで、鳴いたり、吠えたりしなくてもすむようになるかもしれません。また、人間の生活の様子や、テレビの音や、いろいろな匂いに接する機会を与えてあげるとは、社会化の点においても大切です。詳しくは、「第4章 子犬の社会化」を参考にするといいでしょう。

犬が安心できるスペースを作りましょう！

サークルの中に、犬が安心して寝たり、休息したりするスペースはありますか？犬は、穴のようなスペースを休息場所とする習性があります。サークルの中にクレートを置いてもいいでしょう。犬が丸くなって寝ることのできる程度の大きさのダンボールを用意して、「コ」の字に置くとちょうど穴のようになりますね。その中にタオルなどを敷いてあげてもいいでしょう。犬が休みたいな、と感じたときに、自由にそこに入ったり、安心して休息できるような場所を確保してあげましょう。

快適な環境を！

サークルの中は、寒くないですか？暑すぎないですか？水がいつでも飲みたいときに飲めるようになっていますか？

犬も人間と同じように、寒ければより暖かい場所を探し、暑ければより涼しいところを探します。サークルよりサークルの外が快適であれば、サークルから出して！と要求するかもしれません。寒いときには犬用のヒーターを入れてあげたり、暑いときには直射日光のあたる場所を避け、風とおしのよいところにサークルを置いてあげるなど、サークルの中にあることが心地よいと感じる環境を整えてあげるようにしましょう。

ガムやおもちゃなど、犬が好きなものを一緒に入れてあげることで、サークルに良い印象を持ってもらうこともできます。

対処方法2：接し方を工夫しよう！

たくさんスキンシップをしてあげてかまいません！

犬と遊びすぎたり、撫でたりしすぎると、犬をわがままにしてしまうのではないかと心配なさる方が多くいらっしゃいます。子犬は人間とのスキンシップの中で、人間との付き合い方を学んでいきます。犬と接する機会を作ってあげるとはむしろ大切なことで、問題なのは「犬と接しすぎる」ということではなく、「それをいつするか」ということです。

甘えているときには、存分に体を撫でてあげたり、抱いてあげましょう。そのときに、耳やお腹、マズル(口の上)、手や足、爪やお尻、口の中・いろいろなところを触ってあげるといいでしょう。それは、これから先、ブラッシングをしたり、歯を磨いたり、爪を切ったり、獣医さんに診察をしてもらったり、犬の健康管理にも役立ちます。

はしゃいでいるときは、たくさん遊んで、存分に楽しい時間を過ごしてかまいません。楽しく遊んで、運動して、その後サークルでぐーっすり寝てくれるといいですね。

タイミングに気をつけよう！

それでは、いつ撫でたり、遊んだりしてあげればいいのでしょうか？「始めるタイミング」に気をつけましょう。

鳴いたり、吠えたりしているときには、無視をする(話しかけない、目をあわさない、触らない、サークルから出すなど犬の要求に応じない)こ

とを徹底しましょう。叱ることもしてはいけません。相手をしてもらった、と犬を喜ばせて、逆効果になってしまいます。犬が鳴いていないときや吠えていないとき、あるいは、吠え止んだときに、声をかけ、サークルから出してあげるといいでしょう。こうすることで、鳴いたり、吠えたりしている限り何もいいことは起こらない、人間に相手をしたいときにこそ鳴いてはいけない、ということを経験します。

待っても待っても泣き止まないときに、人間が妥協してしまうとどうなるのでしょうか？犬はしつこく鳴き続ければ人間が応じてくれる、ということを経験し、ますます鳴き続けることとなります。一旦、無視をすると決めたら、一貫した態度をとることが必要です。

無視を始めると、一時的に前よりもひどく鳴いたり、吠えたりする時期がやってくることがあります。しかしこの時期を乗り越えると、「鳴いたり、吠えたりしても何もいいことは起こらない」ということを学習します。反対に、この時期に人間の方が我慢できずに応じてしまうと、「しつこく鳴き続ければ人間が応じてくれる」ということを学習させてしまいます。

姿が見えなくなると鳴きだす・・・の対策

好きなものを渡してあげよう！

人間の姿が見えなくなると吠え出す、という犬の場合には、姿を消す直前に大好きなおもちゃやガムなどを渡すようにするといいでしょう。このときに与えるおもちゃやガムは、何でもいいというわけではありません。あなたが部屋を出て行ったことに気が付かないくらい夢中になってくれるものを与えることがポイントです。

このときに使うガムやおもちゃは、あなたが姿を消すときだけに与えてあげるようにするといいでしょう。こうすることによって、人間の姿が消えるといことは、いつもはもらえない大好きなものがもらえる楽しい瞬間になります。

戻ってきたら、与えたものをすぐに返してもらおうといいでしょう。犬に

とって大好きなものが、人間が姿を消している間だけ犬の元にあるようにするとより効果的です。

時間を少しずつ延ばしましょう！

「ちょっとトイレに行ってくるだけだから、大丈夫。すぐ戻るよ」犬にそう説明してあげることができたなら、こんなに鳴いたり、吠えたりすることはないかもしれませんね。でも、私たちは犬に、それを言葉で伝えることはできません。

それではどうすればいいのでしょうか？まずは、犬が鳴き出さない程度の時間だけ、姿を消すようにしましょう。鳴かずに待っていたら、戻ったときに誉めてあげてもいいですね。そして、姿を消す時間を少しずつ延ばして行けば、「姿が見えなくなっても、いい子に待っていれば必ず戻ってくる」ということを学習していきます。

夜鳴きの対策

あなたの犬にとって、ひっそりと静まりかえる部屋でひとり過ごす夜は、とても長いものかもしれませんね。夜鳴きに悩まされているなら、こんな対処ができます。

寝室が見える場所にサークルを置いてあげよう！

寝室がよく見える位置にサークルを置くことで、夜鳴きが緩和されることがあります。

テレビ・電気をつけておく

テレビや電気をつけっぱなしにしておくことにより、人間が起きている時間とのギャップが埋まり、夜鳴きが緩和されることがあります。もしこの方法で効果があがるのなら、徐々に、テレビのボリュームを下げたり、明かりを小さくしていけば、無理なく「誰もいない暗くて静かな夜」の環境に慣れていくことができます。

一緒に部屋で寝かせてもかまいません！

人間と一緒に部屋で寝かせると、犬をわがままにしたり、一人で寝ることができなくなってしまうのではないかと心配なさる方がいらっしゃいま

す。一緒のふとんで寝させることは、必ずしもいいとは限りませんが、サークルや、ケージ、クレートを寝室に置き、そこで犬を寝させることは問題ありません。多くの場合、それで夜鳴きが解消されます。これには、いくつか注意することがあります。

注意1： 夜中に何回かトイレに連れて行ってあげよう！

体の小さい子犬は、まだ一晩排泄を我慢することができません。犬が一晩過ごすスペースにトイレがないのであれば、何回かトイレに連れて行ってあげましょう。犬はもともと、自分の休息場所を汚さないように、就寝する場所では排泄を我慢する習性があります。その就寝場所で、我慢できずに排泄せざるを得ない経験を積むことは、一体どこが就寝場所だと排泄場所なのか？混乱の元になるかもしれません。

注意2： 鳴いても応じないようにしよう！

一緒の部屋で寝ているのにも関わらず、鳴いたり、吠えたりしたら？一貫して、それには応じないことが大切です。ここであなたが話かけたり、サークルやクレートから出したり、撫でたり、叱ったりすれば、「鳴いたり、吠えたりすれば、人間さんが自分に注目してくれる」と学習し、ますます鳴いたり、吠えたりするようになりますね。

人間が一貫した態度を取ることによって、「近くにいてくれるけれど、決して遊んではくれない、就寝時間はそういう時間なんだな」といことを次第に理解していきます。

お薦め！の就寝場所： クレートで就寝させる利点

犬のしつけの答えはひとつではありません。各ご家庭の事情や、犬の性格に合わせて就寝場所を決めてあげればいいでしょう。しかし！「どうやって寝させるのがお薦めですか？」と聞かれたなら、クレートで寝させることをお薦めします。

クレートは、犬の巣穴の形に似ているので、犬の休息場所として適しています。そしてクレートは持ち運びや移動ができますね。これから先、外泊をしたり、引越しをしたり、なじみのない環境で一晩過ごさなければならぬような事態になったときにも、クレートで寝る習慣ができていれ

ば、環境の変化を感じることなく一晩過ごしてもらうことができます。

たとえ犬と人間が同じ部屋で就寝するとしても、一緒のふとんで寝るのではなく、クレートで就寝させる習慣にすれば、別々の部屋で就寝させなければならなくなっても、いつも使っているクレートがあれば、犬はストレスを感じることなく過ごすことができます。

吠えることを習慣化させないために

犬のしつけには厳しさが大切です。しかしそれは、叱ったり、叩いたり、犬に向ける厳しさではなく、一貫した態度が取り続けるという、人間が自分自身に向ける厳しさです。

一生懸命に鳴いたり、吠えたりして訴える犬を無視するということは、ときに叱るよりも人間にとって辛いことかもしれません。しかしながらそれは、「いい子にしているときに、いつもの倍くらい遊んであげよう」という気持ちに変えてあげてください！

ここでご紹介をした対処は、鳴いたり吠えたりする行動の予防にもつながります。今対処をしなければ、これから先も人間に何かを伝えたいことがあるときに、吠えることに頼りがちになるかもしれません。長く続いた習慣を変えるということは、人間にとっても、犬にとっても大変なことです。子犬のうちであれば、より短時間に望ましくない習慣を絶ち、望ましい習慣を形成してあげることができます。それは、人間のためであり、あなたの犬の将来のためですね。

ご家族全員で一貫した対応を！

お母さんは、鳴いてもサークルから出さないけれど、お父さんは出してしまふ…。もしこんな対応をしていたら、子犬は結局鳴けばサークルから出してもらえると学習してしまいますね。犬の行動パターンは、人間の対応によっても決定されていきます。ぜひ「鳴いたときにはどのように対処するのか」ということをご家族全員でよく話あって、犬に対して一貫した態度が取れるようにしましょう。

体調の管理にも気をつけて

人がいなくなると途端に鳴きだしたり、夜鳴きがひどかったり・・・あなたの犬は新しい環境にまだ慣れず、落ち着かない日々を送っているかもしれません。

こんなときには、緊張が続いていたり、ぐっすり寝れなかったり、体調を崩しやすいものです。しかも、抵抗力のまだまだ弱い子犬です。毎日のおしっこやうんちの状態、食欲、変わった様子がないかなど、よく観察してあげてください。そして、気になることがあったら、すぐに獣医さんに相談しましょう。

子犬の成長を暖かく見守ってあげてください！

子犬はたくさん食べて、たくさん寝て大きくなっていきますね。体重を測るごとに、少しずつ、でも確実に成長しているのがよくわかるでしょう？

心の成長も同じです。どうすれば人間にたくさん遊んでもらえるのかな、スキンシップしてもらえるのかな、と日々試行錯誤しながら、毎日少しずつ成長しています。犬と人間は、最初からうまく共存できるものではありません。ご近所やお友達の家のわんこはいい子なのに・・・とお嘆きかもしれませんが、最初からそうだったのではなく、みな同じ道を歩んでいます。

今は、子犬の相手でフラフラになっているあなたも、1年経ち、2年経つ頃には、子犬の頃が懐かしい・・・と手がかからなくなったことをちょっぴりさびしくさえ思えるようなときが必ずやってきます。そのときに、人間に対して生き生きと豊かな表情ではたらきかけてくれる犬でいてもらうために、ぜひここでご紹介した方法を参考にしてください。心の成長には、体の成長と同じくらい、いえ、それ以上にこまやかな心くばりが必要です。あなたの犬が、体だけでなく、心も大きく伸びやかに成長しますように・・・。



1. 子犬の社会化

社会化ってなに？

犬には「社会化期」という時期があります。3週から12週ごろと言われていています。

思えば犬とは不思議な動物ですね。あなたと犬とは“種”の異なるもの同士ですが、ひとつ屋根の下、家族として、そして、同じ群れの仲間として仲良く暮らしているのです。どうしてそのようなことが可能なのでしょうか？

その答えの鍵が「社会化期」にあります。

犬は、社会化期に、自分の周りにいる人間や動物を仲間として認識するようになります。つまり犬は、子犬のうちから(社会化期に)人間と一緒に暮らすことによって、“種”が異なるにも関わらず、人間を仲間だと認識することができるようになるのです。

“犬”が嫌いな“犬”・・・

普通は、“種”の異なる人間を仲間だと認識する過程が、家庭犬にとっての社会化だと言えます。しかしながら、早くから親や兄弟たちと別れて人間と生活を共にするようになった犬の中には、犬を仲間だと認識する機

会に恵まれず、その機会を人間が社会化期に意図的に作ってあげなければならぬことがあります。とても奇妙なことですが、その機会がないままに大きくなってしまった犬の中には、仲間であるはずの犬とどのように接すればいいのかわからず、接触を拒んだり、吠えたり、“犬見知り”をする犬になってしまうことがあるのです。

“犬”から見た人間たちの生活・・・

犬の目には、私たちが暮らす環境はどのように映っているのでしょうか？

家の中には、ソファがあつたり、たくさんの家具がありますね。窓にはひらひらカーテンが揺れています。絨毯や畳の感触は、犬にはなじみのないものかもしれません。テレビやラジオからは耳慣れない音がするし、掃除機は、大きな音を立てて動き回りますね・・・。どれもこれも、野生の犬であれば、一生お目にかからないようなものばかりです。

家を一步出れば、土や草の場所ばかりでなくアスファルトの道もあります。猫やカラスもいるでしょう。車や自転車、バイクも走るし、ときには、電車や車に乗って出かけることもありますね。空からは、雨が降ってくることも、雷が落ちてくることもあります。そして何より、人間に囲まれて生活する以上、男の人、女の人、子ども、お年寄り、めがねをかけている人、帽子をかぶっている人、いろいろな人に出会うことになります。

犬が人間の社会で生きていくためには、いろいろな経験を通して、このような“犬にとって見慣れないものたち”に慣れる必要があります。そして、周りの環境に対する順応性が高い子犬の時期は、その絶好の時期なのです。

子犬の時期にこのような機会に恵まれないと、見たことのないもの、聞いたことのない音、経験したことのない感覚・・・など、未知の出来事に、成犬になった後でたくさん遭遇することになります。そして、それらの出来事に過敏に反応し、吠えたり、怖がって威嚇をしやすい子になるかもし

れません。

さあ！散歩に出かけましょう！

子犬があなたの家庭にやってきて、ワクチン接種を終えたら、できるだけ早い時期に、お散歩に出かけましょう！

あなたの犬を“犬見知りクン”にしないために、できるだけ穏やかな性格のわんことお友達になって、遊ばせてもらうとよいですね。他の犬と楽しく遊ぶ経験を重ね、上手に“犬とのお付き合い”ができるようになることは、犬の生活を豊かにするだけでなく、知らない犬に過敏に反応し、吠えたり、威嚇したりするような問題を防ぐことにも通じます。

お散歩に出かけたら、近所の方に子犬を見てもらいましょう。男の人、女の人、めがねをかけている人・・・いろいろな人に優しく撫でてもらいましょう。いろいろな人と接し、楽しい経験を積むことで、人見知りをしにくい犬になるでしょう。

そして、楽しく散歩をしながら、“犬にとって見慣れないものたち”を見たり、接触したりする機会をたくさん作ってあげると良いですね。いろいろな経験をし、さまざまな種類の刺激に触れることは、これからの生活の中で遭遇するどんなことにも、強いストレスを感じることなく順応していくための基盤になります。

子犬の人生はまだ始まったばかりですね。子犬の時からいろいろな経験をさせてあげることが、これからずっと続く犬の生活を豊かにしていくことに通じるのです。

無理は禁物です！

子犬は、順応性も高く、豊かな感受性でいろいろなものを吸収していきますね。だからこそ、さまざまな刺激に順応していくことができます。しかしその一方で、この時期に体験した辛い出来事が犬の中に強く印象づけられることもあります。

子犬にさまざまなものを見たり、体験させたりするときには、それが犬にとって楽しい体験になるように気を配ってあげなければなりません。それが、その子犬にとって、あまりに強すぎる刺激や、恐怖を感じるような体験になってしまった場合には、どうなるでしょうか？犬が初めて体験した“犬にとって見慣れないものたち”は、犬にとって、ただ恐ろしく、決して近寄ってはいけないもの・・として刻みこまれてしまうかもしれません。これでは逆効果ですね。

犬に新しい経験をさせてあげるときには、犬の様子をよく観察しましょう。怖がっているようなときには、無理に近づけたりせず、できるだけ楽しい雰囲気、励ましながら、徐々に近づくようにするといいいでしょう。今日が駄目でも、また明日、そして、その次の日があります。決して焦らず、犬のペースに合わせてあげることが大切です。

犬と接触させるときには、できるだけ穏やかな性格のわんこに協力してもらい、徐々に慣らしていくといいいでしょう。

近所の方に子犬を見てもらうときには、子犬が驚かないように、静かに、優しく、下の方から手を差し出してもらうようお願いしましょう。

大きな音が嫌いな子には、できるだけ静かなお散歩コースを選んであげ、徐々に、車やバイクなど、嫌いな音に慣らしていくといいいでしょう。

お散歩嫌いは克服できる？

お散歩デビューを果たした子犬にとって、外の世界は未知との遭遇ですね。最初は、そわそわ気が散って、お散歩どことではないかもしれませんが。あるいは、その場に固まってしまったり、全く動かなくなってしまう子もいるでしょう。

子犬に、外の世界によい印象を抱いてもらえるような楽しいお散歩デビューを果たすにはどうすればいいのでしょうか？

できるだけスムーズに歩くことができるお散歩コースを考えよう！

外の世界には、小さな子犬にとって、びっくりしたり、恐怖に感じるようなことがたくさんありますね。車の音が嫌いな子、大きな犬がいるお宅の前でおじけづく子、階段の手前で立ち止まってしまう子・・・。苦手なものがきっとあるでしょう。

まず最初は、できるだけスムーズに歩くことができるようなコースを工夫してお散歩してみましょう。そして、徐々に、いろいろな経験ができるように、お散歩の範囲を広げていけばよいのです。

お散歩の途中で、楽しみを作ろう！

お散歩には、おもちゃや、ご褒美になるような何かおいしいものなど、あなたの犬が大好きなものを持っていきましょう。ただ、並んで歩くだけでなく、公園などで、おもちゃを使って遊んだり、話かけたり、体を撫でてあげたり、ゆったりと過ごすことのできる時間を設けるといいいでしょう。

怖がっても、知らん顔をしよう！

犬が怖がっている素振りを見せていると、ついつい立ち止まって振り返り「大丈夫だよ」と声をかけたり、撫でてあげたり、あるいは抱っこしてあげたくありませんね。しかし、そのことで犬は、怖いときや歩きたくないときには、歩かないよ！と頑固に踏ん張ったり、飼い主さんに抱っこをねだったり、飼い主さんのことを心配そうに見つめたりすれば、飼い主さんが立ち止まって自分を振り返り、声をかけ、運が良ければ抱っこしてくれるんだな・・と、学習してしまいます。そしてその結果、ますます、歩かないよ！と踏ん張ったり、抱っこをねだったりするようになるのです。

あまりひどく怖がっているときには、翌日から、別のお散歩コースを考えてあげればよいのです。一旦お散歩に出かけたら、多少犬が怖がっていても、「さあ！行こう！」と楽しげに、元気よく声をかけ、歩くように促しましょう。お気に入りのおもちゃを見せながら、歩くように誘ってあげてもいいでしょう。歩き始めたときに「いい子だね！」と明るく声をかけ、

ご褒美を口に入れてあげてもいいでしょう。そうすることで、怖がっていても何もいいことは起こらないんだな・・・ということだけでなく、飼い主さんについていくと、たくさん誉めてもらえるんだな！楽しい気分になるんだな！と感じてもらえるようになるのです。

問題を予防しよう！

犬はとても賢い動物です。ただ食事をもらい、散歩をし、昼寝をするだけでは、精神的に満足をして生活することはできないのです。人間が、ただ生きていくだけではなく、働いたり、人と話をしたり、買い物をしたり、遊んだり、勉強したり・・・さまざまな刺激を受けることによって、精神的にも満ち足りた生活をしていくことができるのと同じですね。

毎日お散歩をし、他の犬と遊んだり、近所の人に撫でてもらったり、広い公園で走り回ったり、ボールやフリスビーを追いかけたり・・・というような刺激の多い生活をする事で始めて、犬は肉体的だけでなく、精神的にも豊かな生活を送ることができます。

もし満足できないと、どうなるのでしょうか？刺激を求め、精神的に満足をしたい、という欲求を満たすために、いたずらをしたり、動くものに飛びついたり、道行く人に吠えたり、人間にとって望ましくない行動を起こすかもしれません。

毎日楽しくお散歩をし、精神的に満足することができるような刺激的な生活を送ることは、人間の環境に慣れ、社会化を促進する、ということだけではなく、いたずらや、吠えたり噛んだりする行動の予防にも通じる、犬の“しつけ”にとってとても大切なことなのです。



第5章 “しつけ”の学び方！

1. 子犬のための3つの箱と4つの法則

「しつけは何ヶ月から始めればいいのでしょうか？」

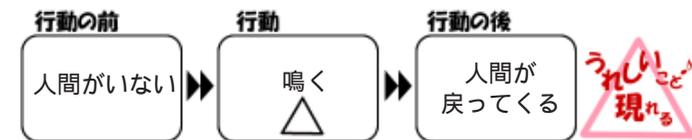
私がよく聞かれることのひとつです。こんなとき私は、「今日からすぐに始められますよ！」とお答えします。でも、私が「今日からすぐに始めましょう」とお勧めする“しつけ”は、もしかしたらみなさんがイメージしている“しつけ”とは違うかもしれません。

例1

想像してみてください。あなたがトイレから戻って、犬のいる部屋に入ろうとしたら、クーンクーンと鳴いている声が聞こえてきました。さて、あなたならどうしますか？「用事済んだもの。部屋に入りたければ入るの当然でしょう？」きっとそう思いますね。

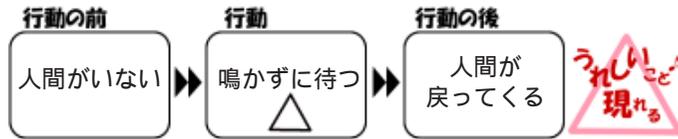
でもちょっと待ってください！今のその状況を3つの箱で整理して、4つの法則にあてはめてみてください。

BEFORE



犬は、何か行動を起こした後うれしいことが現れるような経験をする
と、その行動を繰り返し起こすようになります。ここで部屋に戻ったので
は、吠えれば戻ってきてもらえるんだ!と学習することになります。でも、吠えやむまで待ってから部屋に入るようにすれば、「戻ってきて欲しいときにこそ、吠えずに待つ」ということを日々の生活の中で学習していくことになります。

AFTER



つまり、あなたがそこで、部屋に入るか入らないかで、犬のその後が変わってくるのです。そして、吠えることを学習させないために、吠えていないかどうかを確認した上で部屋に入ること、それこそがあなたが犬にしてあげる“しつけ”です。

例2

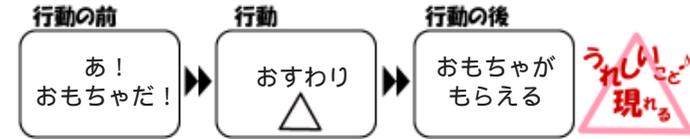
あなたは今、買ってきたばかりのおもちゃを渡してあげようとしています。あなたの犬は興味しんしん。「早くちょうだい!」とあなたに飛びついています。さて、あなたならどうしますか?「どうしますかって・・・?おもちゃあげようとしてるんだもの。あげるに決まってるじゃない!」。3つの箱と4つの法則を知らなければ、おもちゃをあげるときに犬が何をしているか、なんてきっと気にしませんよね!

でもちょっと待ってください!今のその状況を3つの箱で整理して、4つの法則にあてはめてみてください。

BEFORE



AFTER



おもちゃを渡すタイミングを変えるだけで、おもちゃが欲しいときにこそ飛びつかずに待つことを、日々の暮らしの中で犬は自然と学習していくことになります。おもちゃをあげる前に、学習して欲しくない行動をしていないかどうか確認すること。これこそが、あなたの犬をいい子にしてあげるための“しつけ”なのです。

しつけってなんだろう?

おもちゃを渡す前に、犬が何をしているのか見てみる。部屋に戻る前に鳴いていないかな、と確認してみる。そしてそんな“しつけ”なら、何ヶ月からでも無理なく始められるのです。

ぜひ、一緒に暮らし始めたその日から、3つの箱と頭の片隅に置いて、“しつけ”を始めてください!なぜなら犬は、人間が「しつけする・しない」に関わらず、「鳴けば来てくれるんだ!」とか「飛びつけばおもちゃもらえるんだ」とか、日々自分で学習していくのです。「6ヶ月過ぎたら“しつけ”しよう!」そう思ってそのままにしていたら、あなたの犬は自分の力で立派に「おもちゃもらうためには、うんと高く飛びつかなくっちゃ!」とか「戻ってきて欲しいときには、大きな声で呼ばなくっちゃ!」とか、人間にとってあまりよろしくない行動をグングン学習していくことになります。

「おすわりやふせはできるんです。でも、無駄吠えが多くなって・・・」

「おすわり」と言われればちゃんとおすわりできる。「ふせ」と言われたらちゃんとふせできる。でも・・・よく吠えるし、よく飛びつく！そんなことがあったって私はちっとも驚きません！

おすわりやふせを教えることで、犬ができるようになることは、当たり前のことですが「おすわり」と言われておすわりすること、そして、「ふせ」と言われてふせすることです。しかしながら、あなたの「おすわり」や「ふせ」の合図で、おすわりふせができるようになったからといって、自然と犬が“いい子”になり、吠えずに人の帰りを待つことや、飛びつかずにおもちゃを受け取ることもできるようになるわけでは残念ながらありません。



はなちゃんには、「おすわり」や「ふせ」をたくさん練習しているのでとっても上手。でも、飼い主さんが3つの箱と4つの法則を知らないの、吠えているときに部屋に戻ったり、飛びついているときにおもちゃをあげてるの。だから、吠えたり、飛びつくこともとっても上手。

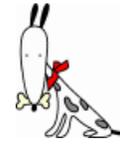


かなちゃんには、「おすわり」も「ふせ」もできないの。でも、飼い主さんはいつでも3つの箱と4つの法則を頭の中に描きながら接しているから、人を呼ぶのに吠えたり、おもちゃやガムをもらうときに飛びついたり決してしないの。

極端な例ですが、そんなことが起こりうるのです。あなたがもし「おすわりやふせを完璧にしたい」という希望を持っているのなら、おすわりやふせを練習するといいでしょ。でも、家族として穏やかに暮らしていけるように、必要以上に吠えたり、人間を噛んだりしない子に育てて欲しい、と願って“しつけ”するのなら、3つの箱と4つの法則を頭や紙の上に描きながら生活していくことが必要不可欠になってきます。

「1日、どのくらい“しつけ”すればいいのですか？」

“しつけ”というと、“しつけタイム”を設けて、「おすわり」や「ふせ」を教えることを連想される方も多いようです。でも、家族の一員として“しつけ”しあげるために必要な“しつけ”は、日常の中にあります。



はなちゃんには、毎日“しつけタイム”があるの。だから、はなちゃんは“しつけタイム”はとってもおりこう！「おすわり」や「ふせ」もできるし、人間も噛まないし、吠えないの。でも、“しつけタイム”が終わって、人間がご褒美を片付けて席を立つと、スイッチがオフになっちゃうの・・・。「おすわり」って言っても知らん顔。



かなちゃんには“しつけタイム”なんてないの。その代わりに、お母さんに呼ばれて「なーに？」って振り返ったり、ブラッシングの間、じっとしていられたらご褒美をもらうの。テーブルの上にはかなちゃんのゴハンを取り分けておいたものや1日分のおやつを小さく切ったものがいつでも準備してあるよ。家族はみんな「かなちゃん、いい子だね」って言ってあげたいときに、そこからひとつあげることにしてるんだ。だからかなちゃんは、いつでもおりこう。

さて、あなたはどちらを目指しますか？競技会に参加するなど、ある特定のシーンだけで何かが上手にできることを目指すのなら、「はなちゃん方式」でももちろんかまいません。でも、家族の一員として犬を育てていくときに目標にしていることは、「日常生活の中でいい子であること」です。そのためには、日常の中での“しつけ”が必要不可欠です。

「えーっ！！それじゃ、1日中、ずっと“しつけ”しなくちゃいけないの?!」なんて気が遠くなっている人はいませんか？「“しつけ”しなくちゃ。悪いことしないようにずっと“監視”してなくちゃ」そんな風に考えるなら、たしかにそれは気が遠くなるような作業かもしれません。でも

最初の話をお出ししてください。おもちゃを渡すその前に、飛びついていないかな、と確認してみる・・・そんな日常の中の一瞬一瞬を大事にしていけることが大切なのでしたね。

「叱っても言うこと聞かないんです。叱り方が間違っているのでしょうか？正しい叱り方を教えてください」

私は叱り方をお教えることは決してありません。でも、そんな風に私に質問して下さる方は、なんとか自分の犬をいい子にしたい、いい関係を築きたいと一生懸命なんだなあ、と思います。そして「叱り方」ではなく「やって欲しくないことを犬がすすんでやめ、望ましい行動を犬がすすんで起こすようになる方法」を見つけてアドバイスすることにしています。

そのために、私は必ず2つのことをお聞きします。まずひとつは、「困っていることを具体的に教えてください」ということ。そしてもうひとつは、「どうなってくればいいと思いますか?」ということ。

BEFORE

「困っていることはなんですか?」という質問から、今(BEFORE)の3つの箱が出来上がります。

「人が帰ってくると興奮しちゃって大変なんです。ものすごい勢いで飛びついてくるので、家に入れません!子供は転びそうになるし、危ないんです。」



あなたは「やめなさい!」と一生懸命叱っているつもりでも、「注目してもらった」と喜ばせているかもしれませんね。

AFTER

「どうなってくればいいと思いますか?」という質問から、目標とすべき状態の3つの箱(AFTER)が出来上がります。

「とにかく、落ち着いてくればそれでいいんです。え?たとえばおすわりしていたらどうか・・・ですって?それができれば言うことありません!」



できた2つの3つの箱を見比べてみてください。そこに「あなたが犬に何をしてあげればいいのか」その答えがギュッと詰まっています。BEFOREとAFTERの箱の差は、いつあなたが犬へ注目を注ぐか、ということだけです。飛びついて大騒ぎしているときには、犬を見たり、話しかけたりしない代わりに、飛びついていないときや、おすわりした瞬間にそれをしてあげればよさそうですね。

アドバイス

私がみなさんにいつもアドバイスするのは、この2つの箱を“翻訳”したものです。たとえば、次のようになります。

「よほどあなたの帰りを待ちこがれていたんですね。“あなた”をご褒美に、人間が困ってしまうほど元気よく飛びつくことを学習できたんですから、おすわりした後で、あなたに相手をしてもらえるようにすれば、それだって必ず学習できるはずですよ。飛びついているときには、犬を見たり、話しかけたりすることはやめて知らん顔していたら、きっと「あれ?」と飛びつくのをやめたり、おすわりしたりする瞬間もきっとあるでしょう。そんなときにとびっきり楽しげに、ただいまと撫でてあげてはどうですか?“飛びついたら何にもいいことないけれど、飛びつかなかったら楽しいことがたくさん起こる楽しいゲーム”を犬と一緒に楽しむような気持

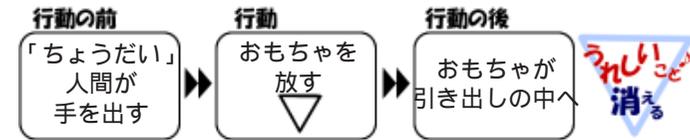
ちで取り組むといいですよ。」

このように考えていけば、叱ることなく、よい方向へと犬を導く方法を見つけ出すことができます。そして、こんな方法だったら、みなさんも自分で解決方法を見つけ出すことができるかもしれない!と思いませんか?そうす!私に限らず、どなたにでも同じことができるのです。そしてせつかく“しつけ方”を覚えるなら、「叱り方」ではなく、「3つの箱と4つの法則」の使い方を覚えて欲しいのです。

「私のこと、リーダーだと思っていないみたいなんです。おもちゃを取り上げようとしたら噛みついてきたんですよ(怒)うちの犬は、自分の方が偉いって思ってるみたいなんです」

たしかに「噛みつく」という行動は、問題ですネ。これから「どうしたらいいか」ということを考えていかなければなりません。でも「噛んだのはリーダーだと思われてないからだ」なんて考えないでください!「私のこと、リーダーだと思ってる?思っていない?」と犬に聞いて確認してみたわけじゃないでしょうか?「自分のこと、好きだと思っていないみたい、尊敬していないみたい」相手が犬に限らずそう考え始めると、相手があうましく思えたり、素直に自分の心を開いて、まっすぐな気持ちで向かい合えなくなったりしませんか?いつもなら気にしないようなことでも「あ・・・やっぱりコイツは、私のことバカにしてる」なんて思えてきたりすることもあるでしょう。そして何より、そんな気持ちを抱いたまま相手のことを心から好きでいられるでしょうか?「自分より上か下か・・・」そんなことを考えながら生活していて、本当の「仲良し」「家族」になれるでしょうか?これでは、解決できるものも解決できなくなってしまうのです。

BEFORE



犬は、何か行動を起こすことで、うれしいことが消えてしまうような経験をすると、その行動を起こさなくなっていく。大事なおもちゃを返してみたら、人間が引き出しにしまってしまった・・・そんな経験をすると、おもちゃを返さないことを学習してしまいます。

不思議だと思いませんか?これまで「けしからん」「リーダーになれていないからだ」と落ち込んだり、腹立たしく感じられていたことが、「なんだ、当然の結果なのか」と思えてきます。「何とかしておもちゃを取り上げなくては・・・」というあなたの希望と、「何とかして取られないようにしなくっちゃ」という犬の希望。ふたりの気持ちがほんの少しずれ違っていただけだったのですね。

AFTER



でも、おもちゃを放した後でうれしいこと(=“ご褒美”)が得られるような経験をさせてあげたら、あなたを信頼して返してくれることだって学習できそうです。そして、その状態を作り出すために、返してもらおうおもちゃよりも好きなものと交換するにしたり、おもちゃを放してくれたあとで、返してもらおうおもちゃよりも好きなものをあげるといいでしょう。

犬の目線になってみよう

「取られたくないよ、ってあんなに必死になるなんて。あんなおもちゃでも、キミにとってはすごく大事なものだっただね」と、理解してあげること。「そんなに大事なもののなのに、渡してくれたなんて偉いじゃない！ありがとう」どんな些細なこともできて当たり前だと思わずに、良い行動を認めてあげること。「キミのその行動、うんと評価してあげたいんだ。だから、ご褒美あげるよ」あなたの誉めてあげたい！気持ちを、行動で示してあげること。

「リーダーにならなくちゃ」と一生懸命になっているそのあなたのエネルギーを、犬の立場に立って考え、望ましい行動を逃さず誉めてあげることへ注いでみてください。あなたの犬はきっと、知らず知らずのうちに、あなたを慕い、あなたについてきてくれるようになるはず。不思議ですね。「リーダーにならなくちゃ」という考えをいったん捨てることで、リーダーになれるなんて。

犬が期待したとおりに行動してくれないときに、「リーダーじゃないからだ」「上位に立っていないからだ」という理由にとらわれていると、なんとかしてこちらの意図をわからせなければ、優位に立たなければ・・・と、叱ったり、押さえつけたり、ひっぱったり、無理やりやらせたり、やめさせたり・・・相手を力でコントロールするような方法に頼りがちになってしまいます。でもそれでは、怖いから言うことを聞くようになったとしても、信頼関係は生まれません。あなたのことが好きだから、あなたにニッコリ笑って欲しいから、大好きなあなたから誉めてもらいたいから、だからいつでもあなたの声に耳を傾け、あなたについて行く、せっかくならそんな関係を築いていくための“しつけ”にしましょう。

犬と暮らす体験が、あなたやあなたの家族にとって、小さな命に対する思いやりの気持ちを育む機会になるといいですね。好みも違う、行動パターンや習慣も違う、言葉も通じない・・・そんな相手とだって分かり合えるようになるんだ！ということを実感する機会になるといいですね。どん

なに腹立たしいことに遭遇しても、そのすべてを相手のせいにするのではなく、問題解決のために自分に何ができるだろうか、と考える機会になるといいですね。3つの箱と4つの法則があなたの傍らで、犬に言うことを聞かせるための“テクニック”としてではなく、「犬の気持ちの扉を開ける鍵」として活躍しますように。そして「うちの子の気持ち、誰よりちゃんとわかってあげられる！どうすれば、してごらんって伝えられるのか、ちゃんとわかる！」そんな自信と犬との絆を実感しながら暮らしていけますように。

3つの箱と4つの法則の学び方！

ホームページ

犬のしつけをまじめに考える！：犬の心理学
http://www.dogparty.net/shinrigaku/



小冊子
「3つの箱と4つの法則」
小田 史子・著

犬のしつけをまじめに考える！
ダウンロードセンター
http://www.dogparty.net/download/
よりご利用いただけます。



ビデオ・DVD
「3つの箱と4つの法則 入門編」
企画・制作 小田 史子
1700円

お求め・お問い合わせ

ワンダークレヨン
小田 史子
インターネットからの通信販売のほか、
お電話や FAX でも承ります
通信販売 http://www.dogparty.net/Body/shopping/
tel) 042-775-6004 fax) 042-775-6005

2. 子犬のためのクリッカートレーニング

あなたの「いい子ね」が子犬に通じる日

犬は生まれながらにして、人間の発する「いい子だね」という言葉を誉め言葉として理解するわけではありません。あなたと生活を始めたその日からすぐに、人間の声のトーンを聞き分けたり、その表情を読み取ることができるわけでもありません。

私たちは犬にゴハンをあげたり、遊んであげたりするときに、自然にやさしいまなざしで犬を見つめ、やさしく話かけ「いい子ね」などと自然に口にします。犬にとって楽しいできごとと、そのような人間の動作が結びつき、犬は、人間から「いい子ね」と声をかけてもらったり、見つめてもらったりすることが好きになります。そしてその積み重ねで、あなたと一緒にいたい、とあなたの傍らに寄り添うようになるのです。クリッカーを使わなくても、毎日毎日、一緒に過ごすことで、時間をかけて、犬と人間はこのようにしてその絆を深めています。

でも・・・クリッカーを使えば、この過程をより早く、効果的に進めることができます。

折角誉めてあげたいと思っているのに、なかなかそれが伝わらなかったり、予想もつかないようなやんちゃっぷりに、頭を抱えてしまうこと、きっとありますね。かわいい子犬を目の前に、あなたの「誉めてあげたい」「こんなにかわいいと思っているのに」という気持ちが伝わらずにイライラするくらいなら、ぜひクリッカーを使ってみてください！

クリッカーを使うことの最終的な目的は、「クリッカーを使って犬とコミュニケーションできるようになること」ではありません。クリッカーがなくても、あなたと犬との間で上手にコミュニケーションできるようになることです。クリッカーは、そこに行き着くまでのあなたと犬と道しるべです。

1日も早くコミュニケーションできるようになるために

クリッカーの「カチン」の音は、「いい子だね」と犬に伝える誉めのサインです。クリッカーを使うことで、人間とのコミュニケーションの仕方をまだ知らないあなたの犬にも、確実に誉めてあげたい気持ちを伝えてあげることができます。そして犬は、「どうすれば誉めてもらえるのかな！」ということを経々に理解していきます。こうやって最初はなかなか上手くいかなかった子犬とのコミュニケーションが、少しずつ、成立するようになっていくのです。

そして、誉めることの繰り返しによって、あなたの犬は、たくさん誉めてくれるあなたのことが大好きになります。尻尾をフリフリ「次はどんな楽しいことが起きるの?」「誉めて誉めて!」とあなたの顔を見上げるようになります、いっそうかわいくなりますね。そして「また遊んであげよう! トレーニングしてあげよう!」と思うのではないのでしょうか? こうやって、あなたと犬との絆は深まり、かけがえのない家族になっていきます。

いつから始めればいいのでしょうか?

いつからでも、何ヶ月からでもクリッカーを使うことができます! なぜ、そのようなことが言えるのでしょうか?

犬は、人間が何かを教えようとしなくても、生まれたときから学習をしています。おなかがすいたときにはどこに行けばいいのか、寒さを感じたときにどうすればいいのか、学習することができなければ、生きていくことはできませんね。生まれたときから、「生きていくための学習」を始めます。

クリッカートレーニングは、このような犬が生まれながらにして持つ学習能力を引き出し、“人間と暮らしていくための学習”を促します。だから、年齢、月齢にかかわらず、クリッカーを使うことができます。

こんなことに気をつけてあげて!

子犬にトレーニングしてあげるときには、こんなことに気をつけましょう。

ご褒美として、ゴハンの一部を使うことから始めてみましょう!

食餌の量が急激に増えたり、食べるものが変わること、小さな子犬の胃腸に負担がかかる可能性があります。ご褒美として食餌の一部を使えば、1日に与えるものの種類や量を変えずにトレーニングに取り組むことができます。

遊びたい気分のときにトレーニングしてあげて!

子犬は、たくさん遊んで、たくさん寝て、スクスク成長していきます。遊んだり、トレーニングをしたりすることと同じくらい、あなたの子犬に、ぐっすり眠り、休息する時間を与えてあげることが大切です。あなたの犬は、お昼寝から目覚めたら「遊ぼうよ!」とはしゃぎ、遊んでいたと思ったら、いつの間にか眠っていた・・・というサイクルを繰り返していませんか? 子犬が「遊びたいよ!」と元気いっぱいになるときに、クリッカーを使って楽しく遊びながらトレーニングに取り組んであげてください!

あなたの家に来たばかりの時期は、あなたの新しい環境になれず、体調を崩しやすい時期でもあります。クリッカートレーニングはいつからでも始められます。でもそれと同時に、いつ始めても遅くないのです! どうぞ、あなたの犬の体調を見ながら、無理のないトレーニングをしてあげてください。

1回あたりのトレーニングの時間

1回あたりのトレーニングの時間は、2～3分程度がいいでしょう。人間も何かに夢中になった後には、心地よい疲労感を感じますよね。それは犬も同じです。犬は、たくさん誉めてもらえるクリッカートレーニングが大好きになります。そして夢中になります。子犬はまだ集中できる時間も

短いので、2, 3分程度トレーニングしたら、休息の時間もたっぷりとしてあげましょう。クリッカーを使って、うーんと楽しい時間を過ごしたら、ぐっすりお昼寝できるように、静かな時間を取ってあげることも大切です。

クリッカーに関する情報

ホームページ

犬のしつけをまじめに考える!
<http://www.dogparty.net/Clicker/>



クリッカー
 赤・青・黄・オレンジ・緑
 1個 200円

ビデオ・DVD
 「はじめてのクリッカートレーニング」
 企画・制作 小田 史子
 1700円



お求め・お問い合わせ

ワンダークレヨン
 小田 史子
 インターネットからの通信販売のほか、
 お電話や FAX でも承ります
 通信販売 <http://www.dogparty.net/Body/shopping/>
 (tel) 042-775-6004 (fax) 042-775-6005

3. 3つの箱と4つの法則 vs クリッカー

ウチの子には、どちらが必要?

最近よく「しつけを始めるにあたって、3つの箱と4つの法則、クリッカートレーニング、どちらをやればいいですか？」と聞かれるようになりました。

3つの箱と4つの法則を学ぶことで、犬が日々の生活の中で、どのように学習していくのかということを理解することができます。そしてそれを、学習して欲しい行動を学習させてあげたり、学習して欲しくない行動を学習させないようにするためにどうすればいいのか、ということに応用していくことができます。

一方クリッカーは、「こんなことができるといいな」と思ったことを教えるのに大変役立ちます。クリッカーは4つの法則のうち、ひとつの法則（うれしいことが現れると・・・）を活用したものです。

クリッカーを使ってみた方の多くが「こんなにスゴイと思わなかった！」とビックリされます。そのくらい効果的で、楽しく“しつけ”ができる優れものですが、使い続けていくうちに、どこかで必ず3つの箱と4つの法則が必要になるときがやってきます。なぜなら、クリッカーで学べるのは、4つの法則のうちのひとつであり、4つの法則のすべてを網羅しているわけではないからです。

どちらから始めればいいですか?

この2つは、どちらからでも始められます。3つの箱と4つの法則から始めてみて、クリッカーが必要になったり、使ってみたくなくなったときにクリッカーを手にしてみる、というのでかまいません。クリッカーから始めてみて、3つの箱と4つの法則が必要になったときに取り組んでみる、というのでかまいません。でももっとも理解を深められる方法は、クリッカーを使いながら、3つの箱も意識する、3つの箱と4つの法則で学

んだことや考えてみたことを、クリッカーを使って実践してみる・・・というように、この2つを平行して使っていく方法です。

でも・・・「とりあえず最初の1歩はどちらから踏み出せばいいのですか？」と聞かれたなら、あなたのタイプに合わせて決めてみて欲しいと思います！

マニュアルでしっかり予習タイプ!

新しい製品を買ったり、新しい習い事を始めようとしているとします。取りかかる前に、マニュアルや本などをしっかり読んで、まずは理解する！そのようなタイプの方は、どちらかというところ3つの箱と4つの法則から始められるのがいいでしょう。

とりあえず、やってみる！やりながら理解していくタイプ!

中には、マニュアルや本を読むよりも前に、まずは使ってみる！体を動かしてやってみる！やりながらだんだんわかってくるのが好き、というタイプの方もいらっしゃると思います。こちらのタイプの方は、クリッカートレーニングから始められるのがいいでしょう。

クリッカーから始められた方へ

クリッカーさえあればいい子なんだけど・・・

クリッカーでのトレーニングが順調に進んでいくと「クリッカーさえあればいい子なんだけどなあ」という“壁”にぶつかってしまうことがあります。その壁を打破するのに3つの箱と4つの法則が必要になってきます。

BEFORE



3つの箱と4つの法則を使って、犬の毎日を見ていくと、犬が学習していくのはクリッカーが鳴った瞬間ばかりではないんだ！ということに気がつくことができます。

この犬が、散歩の前に決まって飛びつくのは、ドアが開くということが、飛びつく行動に対する“ご褒美”になっているからですね！そしてそれに気がついたら、クリッカーを鳴らす代わりに、“ドアを開けてあげる”ことをご褒美にもできるに違いありません！ということがわかります。

AFTER



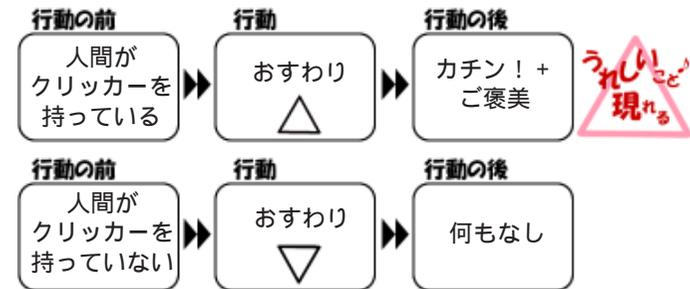
いつもクリッカーを鳴らすタイミングで「さあ！行こう」とドアを開けてあげてください。これなら、クリッカーを持っていなくても誉めてあげられますね。

ゴハンをあげる前や、おもちゃをあげる前、遊びを始める前・・・。「今、これをしてあげたらきっと喜ぶに違いない！」そんな瞬間をクリッカーを鳴らす代わりに“ご褒美”として使ってみてください。クリッカーで上手にできるようになったことが、クリッカーがなくてもできるようにするためには、日常にあふれる楽しい瞬間をご褒美にしていく、という工夫が必要不可欠になってくるのです。

ポイント

クリッカーがあればできるのになければできない、という犬は、人間の手元やポケットの中の様子から、「今ならクリッカー鳴りそうぞ」とか「今はクリッカー鳴らないし、ご褒美ももらえそうにないな」と、状況を見分けることを学習しています。クリッカーや食べるもののご褒美のように、事前に手元に準備しておくご褒美ばかりを使っていると、「ご褒美を手元に持っているときにはご褒美が出てくるけれど、持っていないときには出てこない」という経験をするため、いつだっただご褒美がもらえるの

か見分けるようになるのです。



犬はこのように、人間が予想していなかったことまでも学習してしまうことがあります。「あ・・思わぬことを学習しちゃったぞ」と気がついたら、軌道修正しましょう。クリッカーやご褒美が人間の手元になるかを見分ける学習をさせないためには、どうすればいいのでしょうか？「手元に準備しておかなければならないご褒美」ばかりを使っていると、必ず見分けることを学習してしまいますね。そこで、「ドアを開ける」とか「ゴハンの準備を始める」とか、「散歩に出発する」など、「手元に準備しておかなくてもよいご褒美」を使っていく必要があるのです。

まだ上手にできないときには、繰り返し繰り返し集中的に練習していく必要があります。そんなときにクリッカーや食べるもののご褒美は、大変重宝です。確実に喜んでくれる可能性が高く、何度でも繰り返し与えられからです。だから、まだ上手にできないことを練習している段階のときには、クリッカーや食べるもののご褒美を使い、いったん上手にできるようになったらご褒美の種類を変え、手元に準備しておかなくてもよいご褒美へと変えていくのがいいでしょう。

参考：ご褒美を変えることは、課題ごとに行います。クリッカーを使って「おすわり」が上手になったら、「おすわり」に関しては、手元に準備しておかなくてもよいご褒美を使うようにしていきます。でもまだ「ふせ」が上手にできないなら、「ふせ」に関してはできるようになるまでクリッカーを使うようにします。

たしかに、できることは増えたけど・・・

「たしかにクリッカーはすごい！いろいろなことできるようになったよ。でも“芸”が増えるばかりで、相変わらず問題多いんだけど?!」という壁にぶつかってしまうことがあります。その壁を打破するのに3つの箱と4つの法則が必要になります。

BEFORE

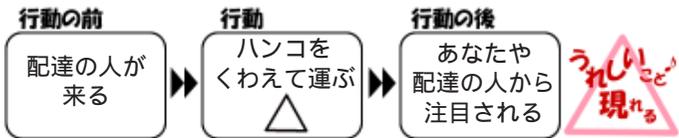
日常生活の中で困っていることを3つの箱と4つの法則で整理してみましょう。

困ってることは何ですか? 「配達の人に来るたびに吠えたり、飛びついたり大変なんです・・・人が好きで好きで、好き過ぎて困ってるんです。」



AFTER

あなたがやめて欲しいと思っている行動を、問題とならない行動と取り替えてみましょう。たとえば・・・



あなたの犬がもし、すでにクリッカーを使って何かを運ぶことを練習していたなら、配達の人に来たらハンコを運んでもらうといいですね。「えらいね！すごいね！」とたくさん注目してもらって犬も満足。何かをくわえてもらえば吠えることも、飛びつくことも防げるので人間も満足！こんなに楽しい解決方法はありませんよね！そして、ただの“芸”のようにとらえられていた行動が、日常生活の中で生きてきます。

「配達の人に来たらしてもらおうこと！」は、おすわりでも、ハウスでも、

マットでも、ふせでもかまいませんよね。クリッカーを使って上手にできることをたくさん増やしておけばおくほど、問題解決のバリエーションが増えることになります。犬と楽しく遊びながらできるようになったことが、いつのまにか、日常に生かされている・・・そんな風になるといいですね。

3つの箱と4つの法則から始められた方へ

どうすればいいかはわかって・・・

3つの箱と4つの法則を勉強し、3つの箱を変形させることを覚えると、きっといろいろな解決のアイデアが浮かぶことでしょう。「配達の人に来たときに吠えて欲しくないのなら、ハンコ運んでもらえばよさそう・・・ってことはわかったよ！でも、ハンコ運んでもらうなんて、ウチの子にはとてとても・・・」そんなこともきっとあるでしょう。それに、あなたがせっかく自分で思いついた解決のアイデアが実現できないのはもったいないですよ。そんなときにクリッカーを使ってみたいのです。これができればいいのになぁ、と思ったことをクリッカーを使って練習してみてください。

3つの箱と4つの法則を意識しながらクリッカートレーニングをしていくと、「これができるようになったら、あの場面で使って、あの困った行動の代わりにしたい！」そんな明確なイメージを持ってトレーニングに取り組むことができます。そのため「クリッカーがあればいい子なんだけど・・・」「できることは増えたけど、それをどう生かせばいいかわからない！」といった壁にぶつかりにくくなります。楽しく問題解決していくために3つの箱と4つの法則で知恵を絞ってみる、そして、クリッカーであなたのアイデアを犬と一緒に実現する！そんな風にこの2つを組み合わせさせて使っていくことで、確実にあなたと犬との生活に役立つものとなるはずですよ！

著者

小田 史子

日本大学大学院 総合社会情報研究科 修士課程修了
人間科学修士

ホームページ 犬のしつけをまじめに考える！(<http://www.dogparty.net>) 主宰。ホームページでの情報公開、セミナー講師、ビデオなどの教材開発を通じ、行動分析学(心理学)を犬と人との暮らしに役立てる方法を紹介する活動をしている。

論文：「オペラント条件づけによる子イヌのトイレトレーニング：家庭における室内トイレトレーニングの介入事例」(行動分析学研究 2003 Vol.18 No1)

日本行動分析学会 会員

本で読む！犬のしつけをまじめに考える！

子犬のしつけ

著者 小田 史子
イラスト Tamako Morita
発行者 小田 史子
発行 ワンダークレヨン

Tel) 042-775-6004
Fax) 042-775-6005
URL) <http://www.dogparty.net/>
e-mail) admin@dogparty.net

Copyright 2004 by Fumiko Oda.